

研究主題

スペースを意識した動きを獲得する生徒を育てる『後期』バレーボールの学習指導

－ フォーメーションを活用した単元構成の工夫を通して －

I 主題・副主題の意味

1 「スペースを意識した動きを獲得する」とは

バレーボールにおいて、自分とスペースとの関係からゲーム感覚を養い、防御面では「スペースを守るための動き」、攻撃面では「スペースを攻めるための動き」を獲得し「動ける体」をつくることである。

スペースを守ったり、攻めたりできる「動ける体」をつくるためには、それに必要な技能や体力を高めるとともに、「ゲーム感覚」を養うことが大切である。

(1) 「スペース」について

バレーボールでのスペースとは、平面とボールがインプレーしているときの空間のことであり、1つのボールを使い「拾う・つなぐ・返す」といったラリーを繰り返す中で、スペースをめぐる攻防にバレーボールの面白さがある。そのスペースを意識したゲームを展開するために、チームで共通認識を持ちながら、戦術の一つであるフォーメーションを活用することで、意図的にスペースを守ったり、攻めたりするための動きを獲得することができる。

(2) 「技能」について

フォーメーションにおける位置取りや役割に応じた技能のことであり、「ボール操作」と「ボールを持たないときの動き」によって構成される。フォーメーションを機能させるには、チームの組織的な動きが求められるため、「ボールを持たないときの動き」が特に重要になる。

『後期』の動ける体をつくるためには、以下のような技能の獲得が重要であると考えられる。

ボール操作	ボールを持たないときの動き
○サーブ ○パス（オーバーハンド・アンダーハンド） ○レシーブ ○ブロック ○トス ○アタック	○ポジションへの素早い移動 ○連携した動き ・仲間をサポートする動き(カバーリング) ・攻めにつながる動き

(3) 「体力」について

運動発達段階からみると『後期』では「力強さとスピーディーな動きの獲得」が適しており、バレーボールの活動場面に置き換えると、ボールや相手の動きに応じた素早い移動などが考えられる。

(4) 「ゲーム感覚」について

『後期』では、『前期』：ボール、『中期』：仲間との関係における「ゲーム感覚」に加え、ボールや仲間の動きに応じて、自分とスペースとの関係に重点を置いた「ゲーム感覚」の育成を考える。

2 「スペースを意識した動きを獲得する生徒」とは

フォーメーションにおける自分とスペースとの関係を理解し、仲間と連携して、空いたスペースを守ったり、攻めたりするための「動ける体」をつくることである。

本研究において、『後期』バレーボール学習における「動ける体」を獲得した生徒の姿を、「態度」「知識、思考・判断」「技能」の観点から以下のように設定する。

ア 態 度	○チームの課題を解決するために、チームで協力しながら、主体的に活動することができる生徒
イ 知識、思考・判断	○フォーメーションでの位置取りや役割を理解し、課題とその解決策を考え、ゲームの中で、状況に応じて指示を出すことができる生徒
ウ 技 能	○「ボールを持たないときの動き」を獲得し、チームでスペースを守ったり、攻めたりするための動きができる生徒

3 「フォーメーションを活用した」とは

フォーメーションにおける位置取り・役割を理解させ、「ボールを持たないときの動き」を中心とした技能の獲得を図るために、具体的支援を行いながら学習を展開させることである。

(1) フォーメーションについて

フォーメーションは、「サーブレシーブフォーメーション」「スパイクレシーブフォーメーション」「オープン攻撃フォーメーション」を取り入れ、最終的には、これらのフォーメーションを切り替えながら、ゲームを展開することを目指す。

(2) 具体的支援について

これらのフォーメーションを学習する際には、以下のような支援を行う。

- 支援教材の活用（スペース攻略ノート・戦術ボード・試合DVD・棒付きボール）
- 練習モデルの提示（ポジション確認練習・ステップ練習）
- チーム会議資料（ゲーム分析シート・解決シート・振り返りシート・戦術シート）

4 「単元構成の工夫」とは

バレーボールの学習を3つの段階で構成し、各段階に課題解決学習を仕組んだ活動構成のことである。

(1) 「3つの段階」について

スペースを意識した動きを獲得させるために、まずチームでボールを落とさずスペースを守る「防御における動きの獲得段階」、次に相手チームのスペースを攻める「攻撃における動きの獲得段階」、最後に防御と攻撃の動きを切り替える「攻防における動きの獲得段階」の3段階で構成する。

① 「防御における動きの獲得段階」について

防御ポジションへの素早い移動やカバーリング（仲間のサポート）ができ、スペースを守るための動きができるようにする段階

② 「攻撃における動きの獲得段階」について

攻撃ポジションへの素早い移動、攻めにつながる動きができ、スペースを攻めるための動きができるようにする段階

③「攻防における動きの獲得段階」について

攻防の中で、防御・攻撃における動きをスムーズに切り替えながら、ゲームを展開できるようにする段階

(2)「課題解決学習」について

各段階において、動きの獲得を図るために、【理解】【発見】【追究】【確認】の一連の流れに基づく課題解決学習を仕組む。

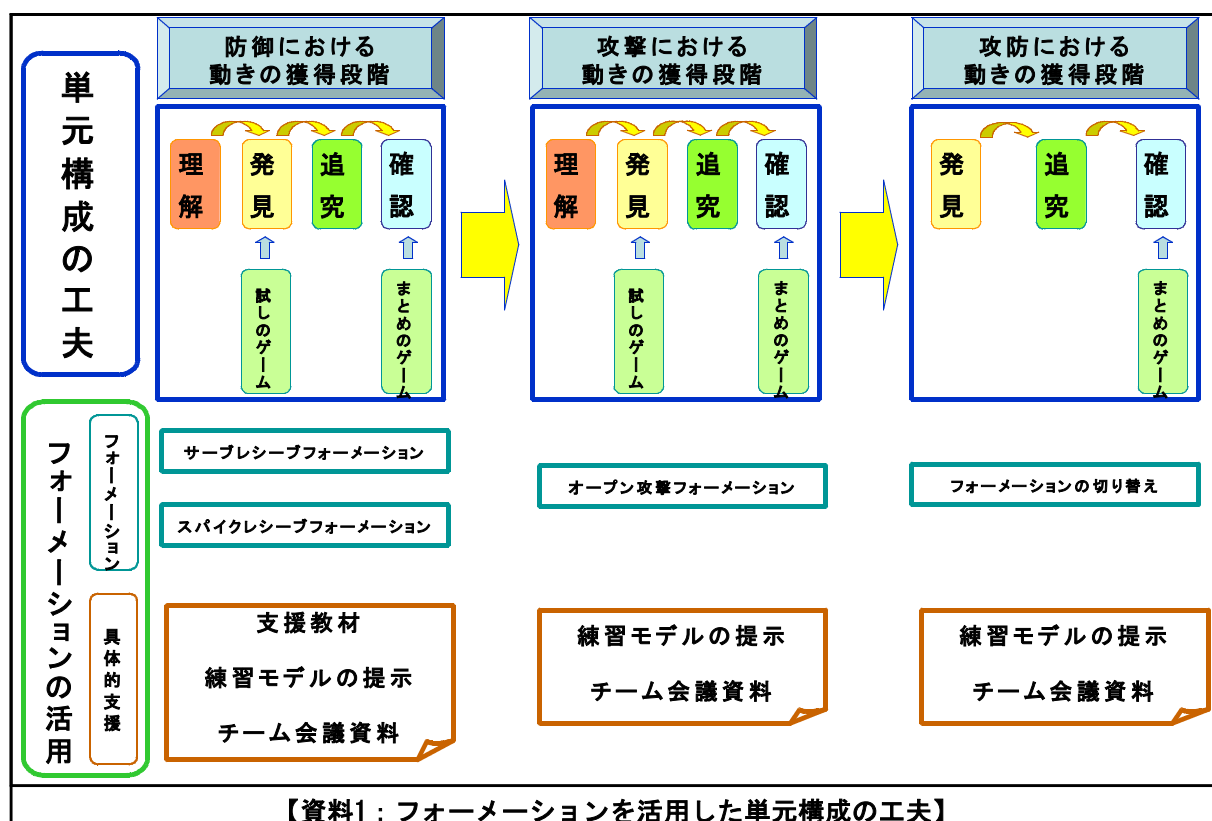
↓	理 解	フォーメーションについての知識を深めさせる活動
	発 見	ゲームを通じて、チームの課題を発見させる活動
	追 究	課題の解決に向けて練習に取り組ませる活動
	確 認	ゲームを通じて、課題を解決した動きができたか確認させる活動

各段階において、【発見】の活動の中で、フォーメーションについてのチームの課題を見つけさせる『試しのゲーム』、また【確認】の活動の中で、動きを獲得できたか確認させる『まとめのゲーム』を導入する。

5 「フォーメーションを活用した単元構成の工夫」とは

3つの段階における課題解決学習の中に、フォーメーションの活用を仕組み、教師が具体的な支援を行いながら学習を展開していくことである。【資料1】

「防御における動きの獲得段階」では、サーブレシーブフォーメーション・スパイクレシーブフォーメーション、「攻撃における動きの獲得段階」では、オープン攻撃フォーメーションを学習し、「攻防における動きの獲得段階」では、これらのフォーメーションを切り替える動きの獲得を図る。また、「攻防における動きの獲得段階」では、フォーメーションを理解する【理解】の活動は省き、【発見】の活動では、前段階で行ったゲームを振り返り、課題を発見していくので、『試しのゲーム』は、実施しない。



Ⅱ 副主題の設定理由

1 意識発達の面から

ピアジェの知的発達論からみると、『後期』は、仮説演繹的思考の後期段階にあり、学習材料の意味づけをしたり、内容を理解していく中で、「～なるはずだ」という必然性の意識に導かれた仮説をたてて、論理的に活動を仕組んでいくことが可能な段階である。

よって、『後期』におけるバレーボールの学習においては、スペースを意識した課題を設定させ、その解決を図るための効果的な練習を行ったり、様々な状況に応じたフォーメーションを考案させたりするなど、課題解決学習を仕組むことに適していると考ええる。また、獲得した動きを戦術として活かしたゲームを展開することも十分可能になると考える。

2 今までの学習指導とバレーボールの特性から

今までのバレーボールの学習指導において、フォーメーションなど戦術的な側面よりもパスやスパイクなどのボール操作の技能を身に付けることが重要と考えていた。よって、チーム内での明確な約束事もなく個人の技能でゲームが展開されていることが多かった。このことは、生徒達が、コートの中でどのタイミングでどのように動けばよいか分からずに、せっかく身に付けた技能がゲームにおいて十分に発揮されていないのではないかと考えた。

今回、高等学校の学習指導要領（案）が示され、球技では、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる、ネット型においては、状況に応じたボール操作や連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することが重要視されるようになった。

そこで、本研究では、バレーボールのフォーメーションにおける位置取りとその役割に応じた動きを理解させ、ゲームの中でどのように動けばよいのかを考えさせるようにする。そのことにより、空いたスペースをめぐる「防御における動き」「攻撃における動き」を身に付けることができるようになり、『後期』における「動ける体」を育成することにもつながると考え、以上のことから本副主題を設定した。

Ⅲ 研究の目標

スペースを意識した動きを獲得する生徒を育てるために、フォーメーションを活用した単元構成の在り方を究明する。

Ⅳ 研究の仮説

『後期』のバレーボールの学習において、以下の工夫を行えば、「ボールを持たないときの動き」を中心とした技能を高めるとともに、ゲーム感覚を養い、「スペースを意識した動き」を獲得する生徒が育つであろう。

着眼点Ⅰ…「防御における動きの獲得」「攻撃における動きの獲得」「攻防における動きの獲得」の3段階に分け、各段階にゲームを導入し、【理解】【発見】【追究】【確認】の活動を取り入れた課題解決学習を仕組む。

着眼点Ⅱ…フォーメーションを活用した動きを取り入れた学習の展開を図るとともに、動きの定着を促すために、具体的支援を行う。

V 研究の具体的構想

1 単元構成の工夫について（着眼点Ⅰ）

バレーボールのゲームは、チームの動きとしては、まずサーブやスパイクなど相手からのボールを拾うことから始まる。また、ボールを拾わなければ攻撃につなげることとはできず、スペースを守るための「防御における動き」は、スペースを攻める攻撃場面においても大変重要な動きである。

そこで、本研究では、防御と攻撃の動きの獲得を同時に行うのではなく、まずは「防御における動き」から学習を進め、次に「攻撃における動き」の学習へ展開させ、獲得した「防御・攻撃」の動きを用いてゲームが展開できるようにする。さらにそれぞれの段階に『試しのゲーム』『まとめのゲーム』を導入し、フォーメーションを活用した【理解】【発見】【追究】【確認】の活動を取り入れた課題解決学習を行う。【資料2・資料3(P6)】

学習段階	導入	防御における動きの獲得段階				攻撃における動きの獲得段階		攻防における動きの獲得段階						
		【防御フォーメーション】 ・サーブレシーブフォーメーション ・スパイクレシーブフォーメーション				【攻撃フォーメーション】 ・オープン攻撃フォーメーション		【フォーメーションの切り替え】						
時間	1	2～3	4～5	6	7～8		9	10～12						
学習展開	準備・集合整列・ランニング・準備運動（ラジオ体操）・動きづくり・挨拶・出席点呼 本時の学習内容の確認													
	○オリエンテーション ○授業前ゲーム	【理解】 ○フォーメーションの理解（サーブレシーブ）	【発見】 ○課題の設定『試しのゲームA』	【追究】 ○動きの追究（チーム練習）	【理解】 ○フォーメーションの理解（スパイクレシーブ）	【発見】 ○課題の設定『試しのゲームB』	【追究】 ○動きの追究（チーム練習）	【確認】 ○動きの確認『まとめのゲームI』	【理解】 ○フォーメーションの理解（オープン攻撃）	【発見】 ○課題の設定『試しのゲームC』	【追究】 ○動きの追究（チーム練習）	【確認】 ○動きの確認『まとめのゲームII』	【発見】 ○課題の設定	【追究】 ○動きの追究（チーム練習）

【資料2：活動構成の工夫】

【資料2：活動構成の工夫】

防 御 段 階	《サーブレシーブ》 *「試しのゲームA」 ○1－5 W型のフォーメーションにつく。 ●サーブを16本打つ。 ○サーブレシーブを行い、(セッターに) ボールをつなぐ	＜得点＞ ・セッターにつなぐ…………… 3 点 ・セッター以外につなぐ…… 2 点 ・拾ったが、つながらない… 1 点 ・拾えない…………… 0 点
	《スパイクレシーブ》 *「試しのゲームB」 ●レフト側のネット前約1 mの所に台を置き、その上にアタッカーが立つ。 ○ベースポジションにつく。 ●セッターは、台上のアタッカーにボールを投げ、アタッカーは、スパイク（パスアタック）を16本打つ。 ○2－1－3型フォーメーションのポジションに移動し、ボールを拾う、またはブロックする。	＜得点＞ ・セッターにつなぐ…………… 3 点 ・セッター以外につなぐ…… 2 点 ・拾ったが、つながらない… 1 点 ・拾えない…………… 0 点 ・ブロックで止める…………… 4 点 ・ワンタッチ…………… 2 点
	*「まとめのゲームⅠ」 ・サーブ権は、得点に関わらず、1本ずつ交代で行う。 ・相手からの返球（サーブ・スパイク）をフォーメーションを活用して拾い、セッターにボールがつながれば、ボールを一度キャッチする。 ・セッターは、<u>レフト側のアタッカーにボールを投げ</u>、アタッカーは、スパイクを打つ。	
攻 撃 段 階	《オープン攻撃》 *「試しのゲームC」 ○後衛ポジションの人は、セッターにボールを投げる。 ○セッターは、ボールを一度キャッチし、レフト側のアタッカーにボールを投げ、アタッカーは、スパイク（パスアタック）を16本打つ。 ●2－1－3型フォーメーションのポジションに移動し、ボールを拾う、またはブロックをする。 ○ブロックカバーに入る。	＜得点＞ ・拾われない…………… 5 点 ・拾われたがつながらない… 3 点 ・拾われる…………… 0 点 ・ブロックされたのを拾う… 5 点
	*「まとめのゲームⅡ」 ・サーブ権は、得点に関わらず、1本ずつ交代で行う。 ・相手からの返球（サーブ・スパイク）をフォーメーションを活用して拾い、セッターにボールがつなげる。 ・セッターは、<u>レフト側のアタッカーにトスを上げ</u>、アタッカーは、スパイクを打つ。	
攻 防 段 階	*「まとめのゲームⅢ」 ・サーブ権は、得点に関わらず、1本ずつ交代で行う。 ・チームで考えた戦術を使い、ゲームを展開する。	

2 フォーメーションの活用と具体的支援について（着眼点Ⅱ）

（１）「支援教材」

①「スペース攻略ノート」

フォーメーションの動きを具体化する資料のことで、基本のフォーメーションにおける位置取りとその役割、相手からの返球を待つ際のベースポジション、スペースを意識するうえでのポイントについて示したものである。また、「ポジション一覧表」についても記載する。防御面・攻撃面における基本のフォーメーションは、以下の通りとする。

ア) サブブレイブフォーメーション

基本のフォーメーションを1-5W型として、各ポジションの位置取りと役割、セッターのポジションチェンジの重要性について示す。【資料4-1】

イ) スパイクブレイブフォーメーション

基本のフォーメーションを2-1-3型として、各ポジションでの位置取りと役割、ベースポジションについて示す。【資料4-2】

ロ) オープン攻撃フォーメーション

レフトからのオープン攻撃におけるアタッカーの動きとブロックカバーのための動きについて示す。また、攻撃が終了し、ボールが相手コートに移ったら、ベースポジションにつくことも示す。【資料4-3 (P8)】

②「戦術ボード」

セッター・前衛・後衛のポジションの色を変えたマグネットを使い、フォーメーションの形とフォーメーションでの位置取りを説明する際に使用する。

サブブレイブフォーメーション

<1-5W型フォーメーション>

＜ポイント＞

- セッターを除く5人が、W型でサブブレイブする。
- 6人それぞれのポジションが重ならないようにする。
- セッターはサブが打たれたら、素早くセッターポジション（ややライト側）へ移動する。→セットアップ
- 確実にセッターにサブブレイブする。

守りは 最大の攻撃なのよ!!

① 【セッターが攻撃（前・センター）の場合】

② 【セッターが攻撃（前・ライト）の場合】

③ 【セッターが攻撃（前・レフト）の場合】

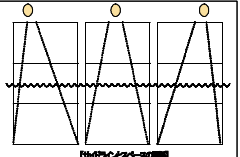
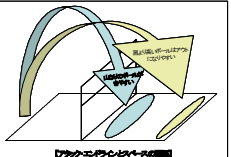
④ 【セッターが攻撃（後・センター）の場合】

⑤ 【セッターが攻撃（後・レフト）の場合】

⑥ 【セッターが攻撃（後・ライト）の場合】

＜スペース＞

- ① 両サイドライン付近のスペースは、ボールがくる確立は低い。
- ② アタックライン付近のスペースは、ネットがあるので山なりのサブで拾いやすい。
- ③ エンドライン付近のスペースを守る際、サブが肩より上にきたボールは、アウトになる可能性が高い。（図2）

【資料4-1：「スペース攻略ノート」サブブレイブ】

スパイクブレイブフォーメーション

<2-1-3型フォーメーション>

2人でタイミングをあわせてブロックに跳ぶ!!

前衛はしっかりガードね。

ベースポジションから移動したよ、フェイントは、私に任せて!!

後ろのスペースは、3人でしっかり守ろうね!!

守りは 最大の攻撃よ!!

＜ポイント＞

- ① 前衛の2人がブロックに跳び、センターライン付近のスペースを守る。
- ② 前衛の1人はフェイントカバーに入り、アタックライン付近のスペースを守る。
- ③ 後衛の3人がレシーブに入り、アタックラインとエンドラインの間のスペースを守る。
- ④ 相手チームのセカンドプレイヤー（基本的にセッター）がどこにボールを上げようとしているのかを素早く察知して、ポジションにつく。

相手の動きを見るのは、とても大切ー!!

セッターが、前衛の時は前衛ライトのポジションからブロックに跳び、後衛の時は、後衛ライトのポジションで、コートの後方スペースを守る。

① 【横の重なりを避ける】

② 【縦の重なりを避ける】

ベースポジション（定位置）とは？

- ① ベースポジションとは、ラリー中に相手からの返球を待つ隊形である。
- ② 前衛の3人は、いつでもブロックに跳べる体勢でネット際に立つ。
- ③ 後衛の3人は、V字型で相手からの返球に備える。

さあ、私たち3人は、いつでもブロックに跳ぶ準備よ!!

後は、私たち3人で守るからね

【3-3 V型ベースポジション】

【資料4-2：「スペース攻略ノート」スパイクブレイブ】

③「試合DVD」

全日本女子バレーボールの北京オリンピックの試合DVDを解説を加えながら提示し、フォーメーションがどの場面でもどのように使われているかを映像で確認させる際に使用する。

④「棒付きボール」

ボールの動きに応じて、フォーメーションにおける位置取りを確認したり、ボールの方向に体全体を向けてカバーリングにつながる動きを身に付けたりする際に使用する。

(2) 練習モデルの提示

①「ポジション確認練習」

「スペース攻略ノート」の「ポジション一覧表」で、セッターのポジションから自分の位置を確認し、コート内でローテーションごとに移動しながら、スムーズにポジションにつけるようにする。また、防御・攻撃・攻防における状況を設定し、それぞれのフォーメーションを使うことができるようになるための練習。

②「ステップ練習」

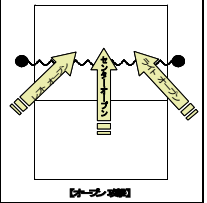
スパイクレシーブで、ベースポジションからブロック・フェイントカバーへのポジションへ移動する際に、サイドステップとクロスステップを取り入れた「カニさんステップ」を使うことで、ボールから目を離さず素早く移動できるようになるための足運びの練習。

(3) チーム会議資料

①「ゲーム分析シート」【資料5-1】

防御・攻撃段階において、「試しのゲーム」の中で、サーブやスパイクを拾うことができたか、または、アタックを使い、相手コートを攻めることができたかを記録させる。また、チーム会議の中で、課題を見付けたり、チームの戦術を考えたりする際に使用する。

オープン攻撃フォーメーション



ボールを拾ったら、
次は 攻撃の準備に入るわよ!!

オープン攻撃とは？

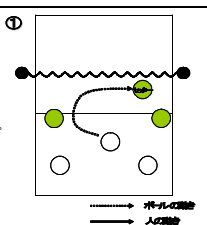
前衛のライト、レフト、センターから
高めのトスを打つ基本的な攻撃パターン。

＜オープン攻撃フォーメーション＞（サーブに対して、レフトから攻撃する場合）

＜ポイント＞

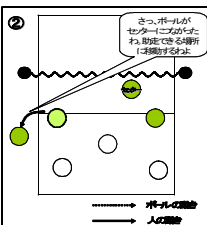
- アタッカーは、自分もしくは他のプレイヤーがボールを拾い、セカンドプレイヤー（セッター）にボールがつながったのを確認したら、攻撃姿勢（コート外のアタックライン後ろ）まで移動する。
- 他のプレイヤーは、アタッカーの動きを見て、カバーリング隊形に移動する。

①



ボールの移動
人の移動

②

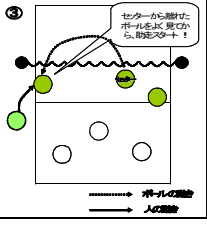


ボールの移動
人の移動

＜スペース＞

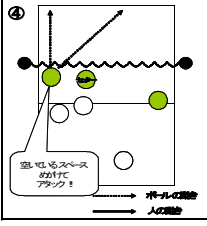
○自分が打ちたい方向に体に向けて攻撃すること。

③



ボールの移動
人の移動

④



ボールの移動
人の移動

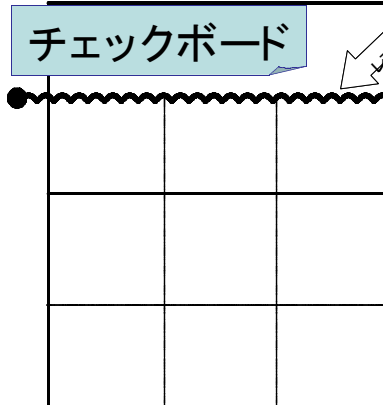
相手チームへの攻撃を終了したら、
そうそう、ちゃんと
ベースポジションにつかなきゃね

【資料4-3：「スペース攻略ノート」オープン攻撃】

「試しのゲームB」でスパイクレシーブを分析しよう!!

*スパイクレシーブ チェックボード

チェックボード



セッターにつなぐ
セッターにパスをつなぐ
拾ったがつかない
拾えない

ブロックで止める B
ブロックでボールに触れる T

*「試しのゲームB」で相手チームのスパイク（バースアタック）の本数 16本

得点表

		ブロックで止める B		ブロックでボールに触れる T		
本数						
得点		本×3点	本×2点	本×1点	本×4点	本×2点
点		点	点	点	点	点
						合計

【資料5-1：「ゲーム分析シート」】

②「解決シート」【資料5-2】

防御・攻撃段階において、チーム内で共通認識のもとに練習やゲームができるように、「ゲーム分析シート」をもとにゲームを振り返り、チームの課題と解決策を明らかにする際に使用する。

③「振り返りシート」【資料5-3】

攻防段階において、前段階までに学習したフォーメーションでのチームの課題を振り返る際に使用する。

④「戦術シート」【資料5-4】

攻防段階において、様々な状況を設定し、効果的な攻防でゲームが展開できるように、フォーメーションや戦術を検討する際に使用する。

「試しのゲームB」でフォーメーションを振り返る！！

2-1-3型フォーメーションを振り返ってチームの課題を見つけるわよ！！

※2-1-3型フォーメーションを使った「試しのゲーム」を振り返ろう！

フォーメーションについて

2-1-3型フォーメーションの利点はどういうことだと思いますか？	なんとなく？・んー？？ んー！・なんとなく？・んー？？
----------------------------------	--------------------------------

◎「ボールを速いパスで回すことについて」

効果的なローテーションで行うことができましたか？	ばっちり！！・もう一息！・なんとなく？・んー？？ ！・もう一息！・なんとなく？・んー？？ ！・もう一息！・なんとなく？・んー？？
--------------------------	--

技能面について

ベースポジションから「1」のポジションに素早く移動できましたか？	ばっちり！！・もう一息！・なんとなく？・んー？？
ベースポジションから「3」のポジションに素早く移動できましたか？	ばっちり！！・もう一息！・なんとなく？・んー？？
ボールの動きを見て、カバーリングの準備ができましたか？	ばっちり！！・もう一息！・なんとなく？・んー？？

◎「ボール操作」について

ボールを確実に拾うことはできましたか？（セッターにつなぐ）	ばっちり！！・もう一息！・なんとなく？・んー？？
ブロックで止めることはできましたか？	ばっちり！！・もう一息！・なんとなく？・んー？？

※相手の攻撃から、スペースを守るために・・・

課題と解決策について

「ボール操作」の課題と解決策をまとめよう。

【資料5-2：「解決シート」】

班「リーグ戦」に勝ち抜くために・・・！！

＜チーム用＞

今まで学習してきたフォーメーションを使ってスペースを意識したゲームを展開するわよ！！

◎「防御面」について
※攻撃フォーメーションを有効に活用するためのチーム課題

*サフレスブフォーメーション
→
*スライクレスブフォーメーション
→
*その他

◎「攻撃面」について
※攻撃フォーメーションを有効に活用するための課題

*オープン攻撃フォーメーション
→
*その他

◎「攻守面」について
※攻撃・攻撃フォーメーションをスムーズに切り替えるための課題

→

【資料5-3：「振り返りシート」】

バレーボール 戦術フォーメーションシート

戦術A

このローテーションの時

→

このフォーメーションを使う！

するために

使えましたか？

戦術B

このローテーションの時

→

このフォーメーションを使う！

するために

使えましたか？

戦術C

このローテーションの時

→

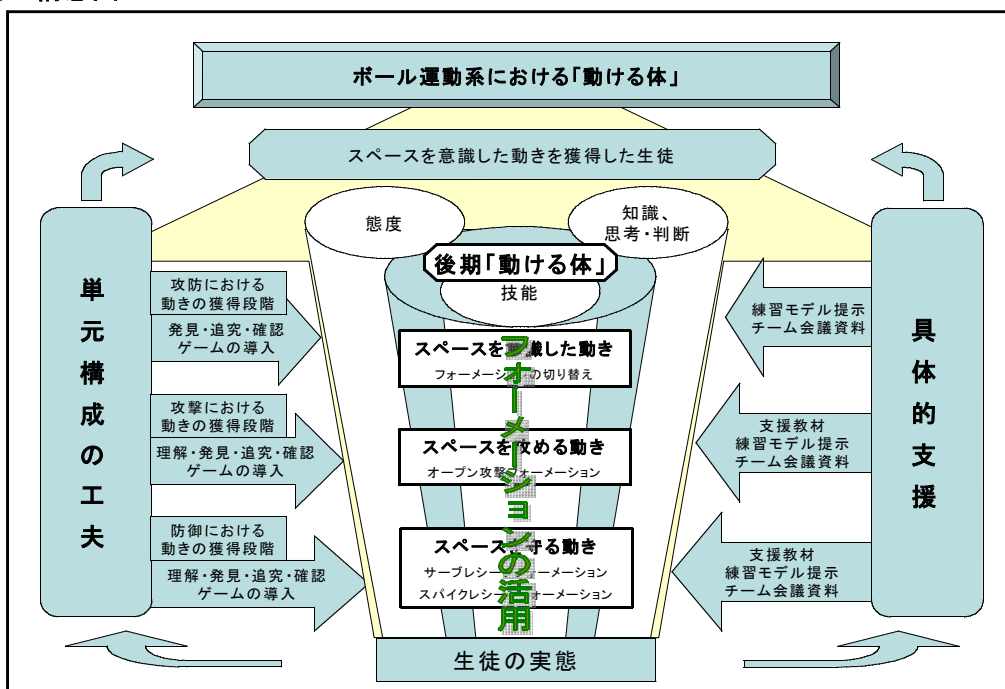
このフォーメーションを使う！

するために

使えましたか？

【資料5-4：「戦術シート」】

3 研究の構想図について



4 仮説検証の方途

目指す生徒像を具現化できたか、着眼点Ⅰ・Ⅱをもとに、次のように検証していく。

防御における動きの獲得段階	生徒像	活動	手立て	実証方法	考察の内容
	ア（態度）	追突	<支援教材> ・スペース攻略ノート ・棒付きボール <練習モデルの提示> ・ステップ練習 ・ポジション確認練習	○チーム練習中の様相分析	○具体的支援を活用しながら、互いに声を掛け合い、チーム練習を行っているか。
	イ（知識、思考・判断）	理解	<支援教材> ・スペース攻略ノート ・戦術ボード ・試合DVD	○説明中の様相分析	○フォーメーションを理解できたことが分かる発言があったか。
				○学習ノートの内容分析	○フォーメーションを理解できた内容の記述があるか。（位置取りや役割について）
		発見	<ゲーム> ・試しのゲームAB <チーム会議資料> ・ゲーム分析シート ・解決シート	○チーム会議中の様相分析	○チームの課題発見と課題解決のための具体的な発言があったか。
				○アンケート分析	○チーム会議の中で、発言できた項目に記入があるか。
	ウ（技能）	確認	<ゲーム> ・まとめのゲームⅠ	○ゲーム中の様相分析	○状況に応じて、互いにフォーメーションを指示する声が出ているか。
				○学習ノートの内容分析	○フォーメーション確認の指示を出すことができた内容の記述があるか。
	ウ（技能）	確認	<ゲーム> ・まとめのゲームⅠ	○ゲーム中の様相分析（VTR分析）	○サーブレシーブの時、各ポジションにスムーズにつき、構えることができていないか。 ○スパイクレシーブの時、ベースポジションから各ポジションに移動できていないか。 ○カバーリングの動きができていないか。 ○「ボールを拾う・つなぐ」の割合が高まったか。

攻撃における動きの獲得段階	生徒像	活動	手立て	実証方法	考察の内容
	ア（態度）	追究	<支援教材> ・スペース攻略ノート <練習モデルの提示> ・ポジション確認練習	○チーム練習中の様相分析	○具体的支援を活用しながら、互いに声を掛け合い、チーム練習を行っているか。
	イ（知識、思考・判断）	理解	<支援教材> ・スペース攻略ノート ・戦術ボード ・試合DVD	○説明中の様相分析	○フォーメーションを理解できたことが分かる発言があったか。
				○学習ノートの内容分析	○フォーメーションを理解できた内容の記述があるか。（位置取りや役割について）
		発見	<ゲーム> ・試しのゲームC <チーム会議資料> ・ゲーム分析シート ・解決シート	○チーム会議中の様相分析	○チームの課題発見と課題解決のための具体的な発言があったか。
				○アンケート分析	○チーム会議の中で、発言できた項目に記入があるか。
		確認	<ゲーム> ・まとめのゲームII	○ゲーム中の様相分析	○状況に応じて、 <u>互いに役割を指示する声</u> が出ていたか。
				○学習ノートの内容分析	○フォーメーション確認の指示を出すことができた内容の記述があるか。
	ウ（技能）	確認	<ゲーム> ・まとめのゲームII	○ゲーム中の様相分析（VTR分析）	○アタックカバーの動きや攻撃ポジションへの移動ができているか。 ○「ボールを落とす」の割合が高まったか。

攻防における動きの獲得段階	生徒像	活動	手立て	実証方法	考察の内容
	ア（態度）	追究	<練習モデルの提示> ・ポジション確認練習	○チーム練習中の様相分析	○具体的支援を活用しながら、互いに声を掛け合い、チーム練習を行っているか。
	イ（知識、思考・判断）	発見	<チーム会議資料> ・振り返りシート ・戦術シート	○チーム会議中の様相分析	○チームの課題解決や戦術のための具体的な発言があったか。
				○アンケート分析	○チーム会議の中で、発言できた項目に記入があるか。
		確認	<ゲーム> ・まとめのゲームIII	○ゲーム中の様相分析	○状況に応じて、 <u>互いに戦術を指示する声</u> が出ているか。
				○学習ノートの内容分析	○互いに戦術を確認しあう指示を出すことができた内容の記述があるか。
	ウ（技能）	確認	<ゲーム> ・まとめのゲームIII	○ゲーム中の様相分析（VTR分析）	○フォーメーションを切り替える動きができているか。 ○戦術を活かした動きができているか。

VI 研究の実際と考察

実践例 平成20年10月2日(木)～平成20年11月18日(火)

福岡県立筑紫中央高等学校 第3学年1・7・9組(女子31名) 体育館

単元 「球技(バレーボール)」

1 オリエンテーション(第1時)

2 防御における動きの獲得段階(第2～6時)

(1) 目指す生徒像

- ア) スペースを守るための動きを獲得するために、互いに声を掛け合いながら、チーム練習を行うことができる。
- イ) 防御フォーメーションを理解し、チーム会議の中で、課題とその解決策を考えることができる。
- ゲームの中で、相手やボールの動きに応じた防御フォーメーションの動きについて、互いに指示を出すことができる。
- ウ) 防御フォーメーションを使い、防御ポジションへの移動、カバーリングのための動きを獲得することができる。

(2) 手立て

- ①支援教材 ----- 戦術ボード、スペース攻略ノート、試合DVD、棒付きボール
- ②練習のモデル提示 ---- ポジション確認練習、ステップ練習
- ③チーム会議資料 ----- ゲーム分析シート、解決シート
- ④ゲームの導入 ----- 試しのゲームA・B、まとめのゲームI

(3) 授業展開

《サーブレシーブフォーメーション：2～3時間》

学習活動(◎)、教師の支援(※)	生徒の反応(ゴシック体は発言、○は様子)
《フォーメーションの理解》 ◎ 1-5 W型フォーメーションを理解する。 ※ 「スペース攻略ノート」「戦術ボード」を用いて説明する。 ※ 「試合DVD」を見せながら、フォーメーションの解説を加え、動きを確認させる。	【写真1：説明時の様子】 S1：「なるほど、ああやって構えるんだ。」 S2：「セッターの移動が早いね。」 ○サーブレシーブフォーメーション(1・5 W型フォーメーション)について理解を示した発言があった。

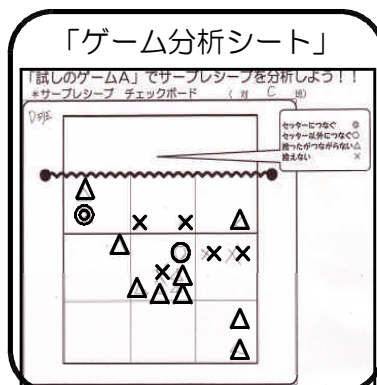
《課題の発見》

◎ゲームを通じて、チームの課題を見付ける。

＊「試しのゲームA」を行わせ、「ゲーム分析シート」にゲーム内容を記録させる。



＊「ゲーム分析シート」をもとにチーム会議を行わせ、チームの課題と解決策を「解決シート」に記録させる。



拾われつながる…x 拾われたがつながらない……Δ
拾われない……○ ブロックされたのを拾う……BT



【写真2-1：「試しのゲームA」の様子】

S3：「次は、どこに行けばいいの？」

S4：「ここよ。」



【写真2-2：「試しのゲームA」の様子】



【写真3：チーム会議の様子】

S5：「ローテーションのたびに、自分のポジションが分からないんだけど。」

S6：「実際のコート内で動きを確認しようね。」

S7：「Δ（拾ったが、つながらない）が多いね。」

S8：「急に、ボールが飛んでくるから、対応できない。」

S9：「ボールの動きを目で追うだけじゃだめよね。」

S10：「素早く反応するために体全体をボールの方向に向けるようにしよう。」

○ローテーションのたびに、自分のポジションを繰り返して確認する。混乱しやすいため、自分のポジションを確認する必要がある。

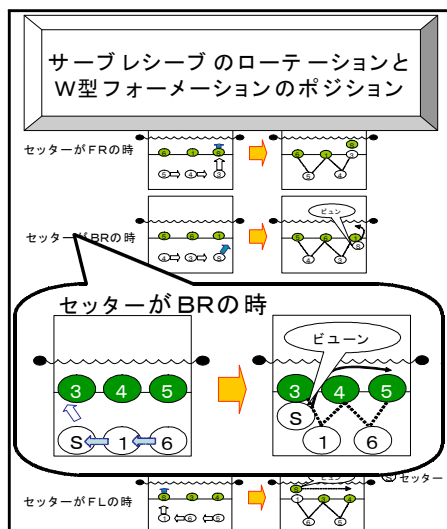
○ボールの行方を見るだけでなく、カバリングのための動き（ボールの方向に体全体を向ける）は、あまり確認されなかった。

○「ゲーム分析シート」をもとに、「試しのゲームA」での課題とその解決策について話し合い、内容を「解決シート」に記録していた。

《動きの追究》

◎チーム練習を通じて、動きの獲得を図る。

*「自分の位置取りが分からない」という課題を解決するために「スペース攻略ノート(ポジション一覧表)」を使った「ポジション確認練習」をモデル提示する。



*「カバーリングの動きができない」という課題を解決するために「棒付きボール」を使った練習を行わせる。



S11：「これ(ポジション一覧表)、分かりやすいね。」

S12：「さあ、私(セッター)がFCの時？」

S13：「私が、前に行くね。」

S14：「違う違う、その時はここよ。」



【写真5：チーム練習の様子(棒付きボール)】

S15：「こっちを向いてよ。」

S16：「えーっ、ここまで体全体をボールに向けないといけないんだ。」

S17：「場所を移動するよ、じゃー、今度はこっちよ。」

S18：「これを使うと(棒付きボール)、実際のボールに体に向けるイメージがつかめるよね。」

○「スペース攻略ノート(ポジション一覧表)」の位置を確認した後に「表」を確かめて、実際に「表」を使っている。

○「棒付きボール」を使って、カバーリングの内容の発言があった。

《動きの追究》

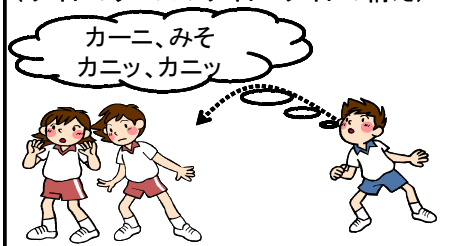
◎チーム練習を通じて、動きの獲得を図る。

*「ボールの方向に体を向けて移動する」という課題を解決させるために、「ステップ練習」をモデル提示する。

ブロック移動(サイド+クロス+ジャンプ)



フェイントカバーへ移動(サイド+クロス+サイド・サイド+構え)



【写真8：ステップ練習の様子】

○かけ声に合わせながら、サイドステップ練習を
ドスッ、とクロスステップを
取り入れた。練習を
意欲的に進めていた。

S25：「このステップは、かけ声と足の運び方が合わせやすいね。」

S26：「サイドステップの時は、『カニ』のかけ声の時だね。」

S27：「そうすると（かけ声に合わせてステップする）、最初の1歩目は、サイドステップだから、ボールの方向に体全体が向きやすくなるね。」



【写真9：チーム練習の様子】

○その後、チーム練習の中で、かけ声に合わせて、動きながら徐々に定着して練習した。

S28：「サイドステップよ。ボールの方向に体を向けるよ。」

S29：「そっか。なかなか上手になったね。」

《まとめのゲームⅠ：6時》

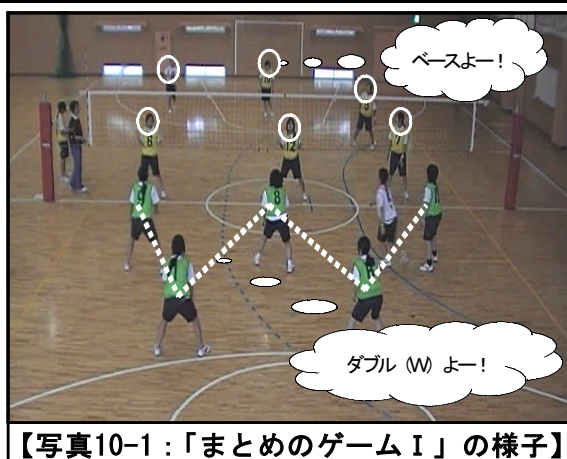
《動きの確認》

◎ゲームを通じて、動きの確認を行う。

*「まとめのゲームⅠ」を行わせる。

《まとめのゲームⅠのルール》

セッターにボールがつながれば、ボールを一度キャッチをして、レフト側のアタッカーに手投げし、アタッカーは、スパイクを打つ。



【写真10-1：「まとめのゲームⅠ」の様子】

○お互いにフォーメーションを確認しながら、混乱せずにスムーズに試合が進行していた。

S30：「ダブル(W) よー。」「ベースよー。」



【写真10-2：「まとめのゲームⅠ」の様子】

○カ
ルバ
ーリ
ン
グ
の
方
向
に
体
の
全
体
を
向
け
る
(ボ
が
確
認
さ
れ
た。)

○サーブレシーブでは、「試しのゲームA」に比べて、「セッターにつなぐ・セッター以外につなぐ」の割合が、48.5%→75%へ高まった。【グラフ4(P21)】



【写真10-3：「まとめのゲームⅠ」の様子】

○ラ
ン
ド
に
入
り
ま
す
と
、
ミ
ス
が
多
く
な
り
ま
す
。
ミ
ス
が
多
く
な
り
ま
す
。
ミ
ス
が
多
く
な
り
ま
す
。

○スパイクレシーブでは、「試しのゲームB」に比べて、「拾えない・拾ったがつかない」の割合が、54.7%→40.0%へ減少した。【グラフ5(P21)】

《『理解』の考察》

イ) 防御フォーメーション(W型・2-1-3型)を理解できた発言や学習ノートの記事があったか。

*《サーブレシーブ》

サーブレシーブフォーメーションの説明の際、S1「なるほど、ああやって構えるんだ。」・S2「セッターの移動が早いねー。」【写真1(P12)】などの1-5 W型フォーメーションの位置取りや具体的な動きについて理解を示す発言が聞かれた。

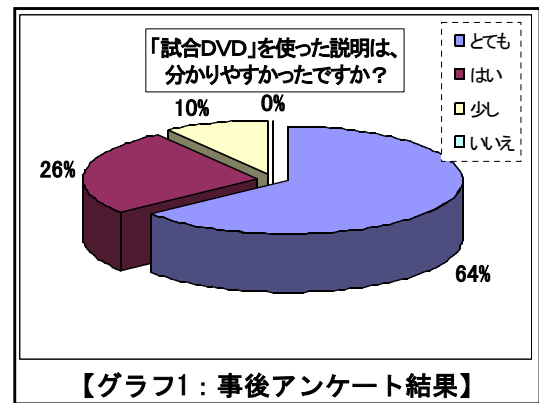
*《スパイクレシーブ》

スパイクレシーブフォーメーションの説明の際、S19「相手コートにボールが移った時に、ベースポジションになってるね。」S20「ブロックに跳んだり、フェイントカバーに行くと、2-1-3の形になるね。」(P15)などのベースポジションや2-1-3型フォーメーションの位置取りや具体的な動きについて理解を示す発言が聞かれた。

このような生徒の姿を引き出したのは、「スペース攻略ノート」の内容を、説明の際に「戦術ボード」や「試合DVD」を用いたことで、フォーメーションの活用場面が具体的な動きとして確認でき、理解が深まったためだと考える。

その根拠は、【グラフ1】の「DVD活用の有効性について」の事後アンケートにおいて、90%の生徒が「とても…64%・はい…26%」と答えていることや、【資料6】の「戦術ボード」の有効性について、学習ノートに書かれた感想からうかがえる。

以上のことから、「スペース攻略ノート」「戦術ボード」「試合DVD」を用いて説明を行ったことは、防御フォーメーションの位置取りと役割を理解させる上で有効であったと考える。



今日は、皆ポジション取りと、なによりローテーションを理解してくれました。やっぱり色のついたじしゃくとかで説明すると分かりやすかったみたいです。

【資料6：学習ノートの生徒の感想】

《『発見』の考察》

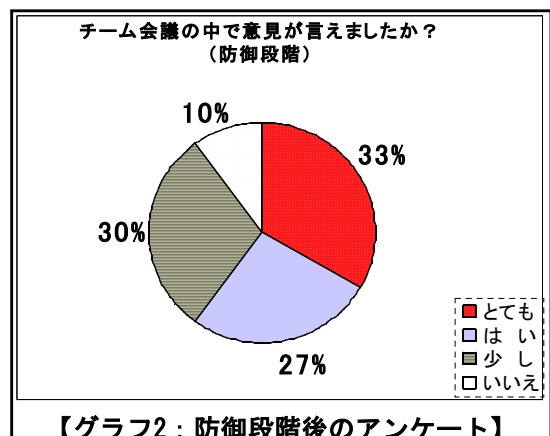
イ) チーム会議の中で、スペースを守るための課題の発見や解決につながる具体的な発言があったか。

*《サーブレシーブ》

「試しのゲームA」では、リーダーの指示がないとポジションにつけない【写真2-1(P13)】、ボールの方向を見ているだけで、カバーリングのための動き（体全体をボールの方向に向ける）はあまり見られなかった【写真2-2(P13)】。その後、チーム会議において、「ゲーム分析シート」をもとにゲームを振り返る中で、S5「ローテーションのたびに、自分のポジションが分からないんだけど。」・S7「△が多いね。」・S8「急に、ボールが飛んでくるから、対応できない。」S9「ボールの動きを目で追うだけじゃだめよね。」(P13)などチームの課題を明確にする発言が聞かれた。さらに、S6「実際のコート内で動きを確認しようね。」・S10「素早く反応するために体全体をボールの方向に向けるようにしよう。」(P13)など解決策を導き出す発言が聞かれ、その内容を「解決シート」に記録していた【写真3(P13)】。

*《スパイクレシーブ》

「試しのゲームB」では、ポジション移動の際に、ステップが使えず、ボールに正対して、スムーズな動きができていない様子だった【写真6(P15)】。その後、チーム会議において、「ゲーム分析シート」をもとにゲームを振り返る中で、S21「×とか、△が多いね。」・S22「スパイクレシーブする時、ボールの方向に体を向けたまま横移動するのは難しい。」(P15)などチームの課題を明確にする発言が聞かれた。さらに、S23「素早く横移動できる方法はないかな？」S24「足運びを工夫したらどうだろう。」(P15)など解決策を導き出す発言が聞かれ、その内容を「解決シート」に記録していた【写真7(P15)】。また、防御段階後にとったアンケート【グラフ2】では、



60%の生徒(とても…33%・はい…27%)が、チーム会議において、課題の発見や解決のための発言をしたと答えている。

このような姿を引き出したのは、チーム会議の際に「ゲーム分析シート」をもとに「試しのゲームA・B」を振り返り、「解決シート」を活用して解決策を模索する活動を仕組んだためだと考える。

以上のことから、「ゲーム分析シート」や「解決シート」を活用し、「試しのゲームA・B」を振り返るチーム会議を仕組んだことは、スペースを守るための課題を発見し解決策を考えさせる上で有効であったと考える。

《『追究』の考察》

ア) 防御における動きを身に付けるためのチーム練習の中で、自己の役割を果たし、協力して練習に取り組んでいるか。

*《サーブレシーブ》

「ポジション確認練習」では、「スペース攻略ノート（ポジション一覧表）」を参考に、S12「さあ、私がF Cの時は？」・S13「私が、前に行くね。」・S14「違う違う、その時はここよ。」(P14)などセッターの位置をチームで確認し合いながら、協力して練習に取り組む姿が見られた【写真4(P14)】。カバーリングのための動きを身に付けるための練習では、「棒付きボール」を使い、S15「こっちを向いてよ。」・S16「えーっ、ここまで体全体をボールに向けないといけないんだ。」・S17「場所を移動するよ、じゃー、今度はこっちよ。」(P14)などボールの方向に体全体を向ける動きをチームで確認し合いながら、協力して練習に取り組む姿が見られた【写真5(P14)】。

*《スパイクレシーブ》

レシーブやブロックなどの位置に素早く移動する練習では、サイドステップとクロスステップを取り入れた「ステップ練習」を行い、S28「サイドステップよ。ボールの方向に体を向けるよ。」・S29「そっか。なかなか上手になったね。」(P16)などボールに正対したまま移動する動きをチームで確認し合いながら、協力して練習に取り組む姿が見られた【写真9(P16)】。

このような生徒の姿を引き出したのは、「ポジション確認練習」「ステップ練習」を提示したことや「棒付きボール」「スペース攻略ノート」を活用し、チームで協力して練習を行う場を設定したためだと考える。

その根拠は、【資料7】の具体的支援の有効性について、学習ノートに書かれた感想からうかがえる。

以上のことから、具体的支援を行い、チームで協力して動きを追究する場（チーム練習）を設定したことは、自己の役割を果たし、協力して練習に取り組ませる上で有効であったと考える。

わ二さんがすごく楽しくて、理解しやすかった

ちょっと前に出すぎるとミがあるから、ボールの方向をみながら移動しようと思います。

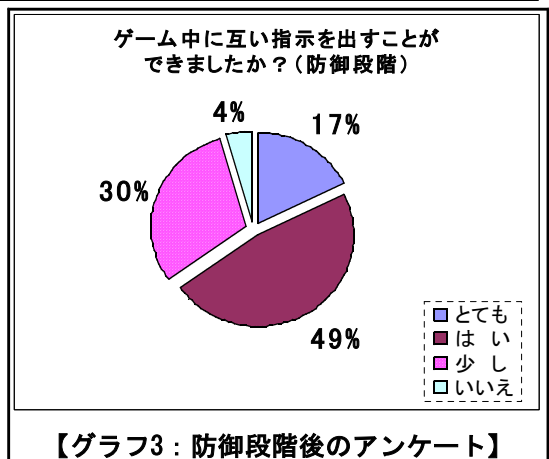
サーブが音聞き良い方だった*! 棒付きボールを使ってボールを動かすとみんなおへそを向けられていたのでよかった

【資料7：学習ノートによる生徒の感想（棒付きボール・ステップ練習）】

<< 『確認』 の考察 >>

イ) まとめのゲームにおいて、状況に応じて防御フォーメーションを指示する声が出ていたか。

「試しのゲームA」では、S3「次は、どこに行けばいいの?」・S4「ここよ。」(P13)などフォーメーションでの位置取りについて、全てリーダーが指示を出していた【写真2-1(P13)】。しかし、「まとめのゲームI」では、S30「ダブルよ。」「ベースよ。」(P16)・【資料8-②】のように、リーダー以外の生徒が、状況判断し、フォーメーションについて指示を出す姿が見られた【写真10-1(P16)】。また、防御段階後にとったアンケート【グラフ3】では、66%の生徒(とても…17%・はい…49%)が、ゲーム中にフォーメーションについての指示を出したと答えている。



このような生徒の姿を引き出したのは、「まとめのゲームI」において、練習の成果を確認する学習を仕組んだことで、自分の取るべき行動(フォーメーションでの位置取り)をゲームの中で判断できるようになったためだと考える。

その根拠は、【資料8-①】の「まとめのゲームI」の有効性について、学習ノートに書かれた感想からうかがえる。

① ゲームしながら、正確な認識ができて、すごく良かった。スムーズに動けるくらいまで
豆頭(体!!)に入ってきた
② みんなで「い〜!!」とか「ベース!!」と
言かけしながらやれたので、最初分からなかった人も最後の方は分かってきた
みたいで良かった

【資料8-①②：学習ノートの生徒の感想】

ウ) 身に付けた防御フォーメーションの動き(カバーリングのための動き、各防御ポジションへの素早い移動)をまとめのゲームで活かすことができたか。

* << サブプレシブ >>

「試しのゲームA」では、ローテーションを繰り返すたびに、自分のポジションが分からず、位置取りで混乱していたり、ボールの行方を見るだけでカバーリングの動きはあまり見られなかったりした【写真2-2(P13)】。しかし、「まとめのゲームI」では、スムーズにサブプレシブフォーメーションのポジションにつき、ボールの方向に体全体を向けたカバーリングのための動きも確認できた【写真10-2(P17)】。その結果、【グラフ4】のように、防御段階で行った2つのゲーム(試しのゲームA、まとめのゲームI)において、「セッターにつなぐ」「セッター以外につなぐ」の割合が、48.5%(31.3%+17.2%)→75.0%(42.9%+32.1%)と高まった。

* << スパイクレシブ >>

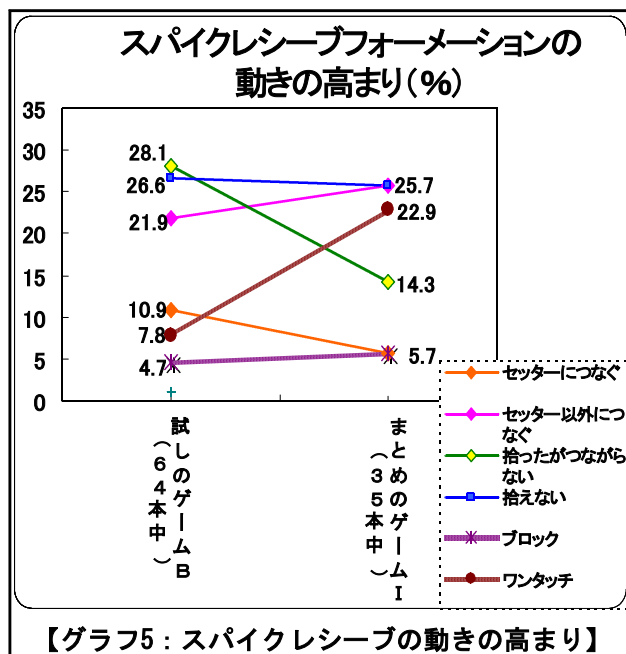
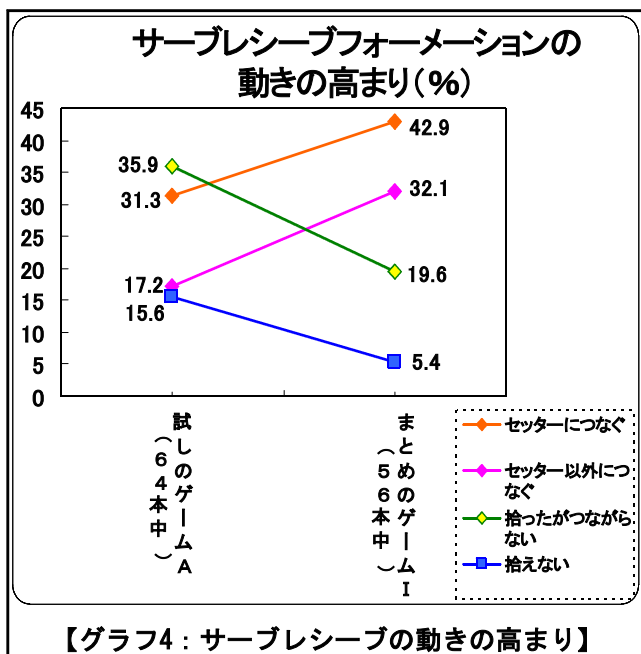
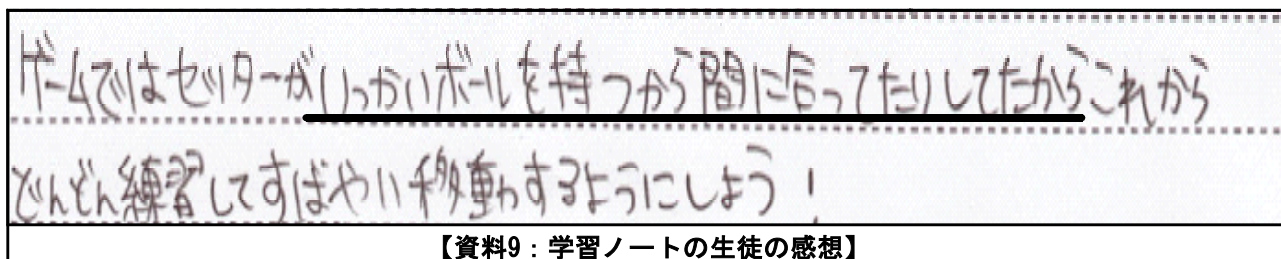
「試しのゲームB」では、うまくステップが使えず、ボールに体全体が向いておらず、ボールに正対したままでの移動が遅かった【写真6(P15)】。しかし、「まとめのゲームI」では、ラリーが続くことで、当初は、防御フォーメーション(スパイクレシブフォーメーション・ベースポジション)での位置取りや動き方に戸惑っていたものの、徐々に各ポジションへの移動が定着してい

る姿が見られた【写真10-3(P17)】。その結果、【グラフ5】のように、防御段階で行った2つのゲーム(試しのゲームB・まとめのゲームI)において、ネット際のスペース守る「ブロック」「ワンタッチ」の割合が、12.5%(4.7%+7.8%)→28.6%(5.7%+22.9%)と高まり、「拾えない」「拾ったがつかない」の割合は、54.7%(26.6%+28.1%)→40.0%(25.7%+14.3%)に減少した。

このような姿が引き出したのは、防御フォーメーションにおける位置取りやカバーリングのための動きを単なるチーム練習にとどめず、実際のゲームで確認する「まとめのゲームI」を仕組んだことと、スパイクレシーブにおいては、攻撃側のセッターが、一度ボールをキャッチしてトスを上げる工夫を取り入れたことで、時間的余裕が生まれ、混乱なくスパイクレシーブフォーメーションに移動できるようになったためだと考える。

その根拠は、【資料9】の「まとめのゲームI」の有効性について、学習ノートに書かれた感想からうかがえる。

以上のことから、ルールを工夫(セッターワンキャッチ)した「まとめのゲームI」を仕組んだことは、防御フォーメーションにおける位置取りやカバーリングのための動きをゲームの中で活用させる上で有効であったと考える。



3 攻撃における動きの獲得段階（第7～9時）

（1）目指す生徒像

- ア）スペースを攻めるための動きを獲得するために、互いに声を掛け合いながら、チーム練習を行うことができる。
- イ）攻撃フォーメーションを理解し、チーム会議の中で、課題とその解決策を考えることができる。
- ゲームの中で、相手やボールの動きに応じた攻撃フォーメーションの動きについて、互いに指示を出すことができる。
- ウ）攻撃フォーメーションを使い、攻撃ポジションへの移動、ブロックカバーのための動きを獲得することができる。

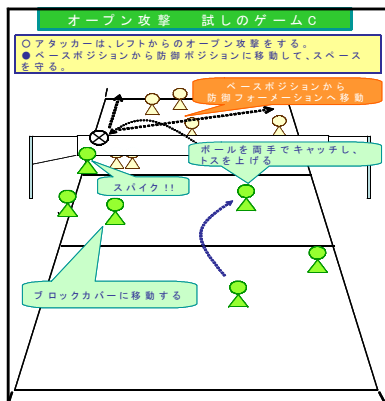
（2）手立て

- ①支援教材 …………… 戦術ボード、スペース攻略ノート、試合DVD
- ②練習のモデル提示 ……… ポジション確認練習
- ③チーム会議資料 …………… ゲーム分析シート、解決シート
- ④ゲームの導入 …………… 試しのゲームC、まとめのゲームII

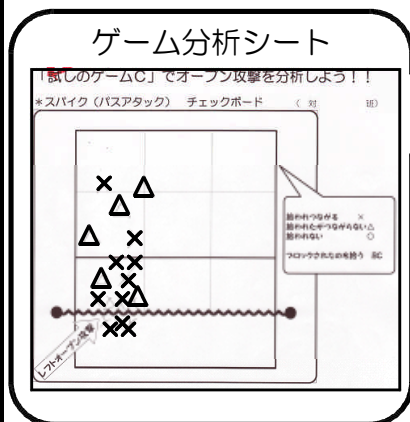
（3）授業展開

《オープン攻撃フォーメーション：7～9時間》

学習活動（◎）、教師の支援（＊）	生徒の反応（ゴシック体は発言，○は様子）
《フォーメーションの理解》 ◎オープン攻撃フォーメーションを理解する。 ＊「スペース攻略ノート」「戦術ボード」を用いて説明する。 ＊「試合DVD」を見せながら、フォーメーションの解説をし、動きを確認させる。	S31：「スパイクを打つ時は、アタックラインの所まで下がるんだね。」 S32：「あっ、ブロックカバーの時は、ネット際まで移動してるね。」 S33：「実際の動きを映像(DVD)で見ると分かりやすいね。」 ○オープン攻撃フォーメーションについて、理解を示した発言があった。
《課題の発見》 ◎ゲームを行い、チームの課題を見付ける。 ＊「試しのゲームC」を行わせ、「ゲーム分析シート」にゲーム内容を記録させる。	写真11：「試しのゲームC」の様子 ○アタッカーは、相手チームがブロックに跳ぶことで、攻撃しにくい様子だった。 「ブロックがおるけん、高く打ってしまふ。」 S34：「トスを上げるよー。」 S35：「よし、スパイク決めるぞ！！」 S36：「相手チームは、防御フォーメーションを使って守ってくるからね。」



＊「ゲーム分析シート」をもとにチーム会議を行わせ、チームの課題と解決策を「解決シート」に記録させる。



拾われつながら…x 拾われたがつかない……Δ
拾われない……0 ブロックされたのを拾う……BT



【写真12：チーム会議の様子】

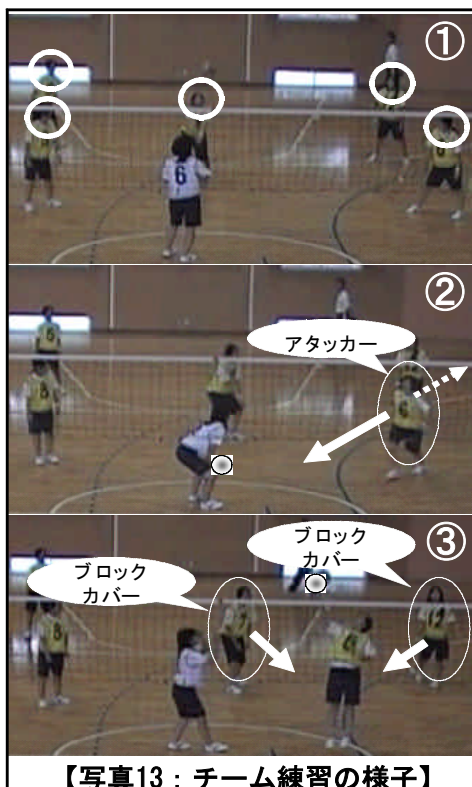
○「ゲーム分析シート」をもとに、ブロックカバーとスパイクの打ち分けについて話し合い、その内容を「解決シート」に記録していた。

- S37：「あー、ブロックがいるから、高く打ってしまう。」
S38：「ブロックを気にせず、思いっきり打っていいよ。」
S39：「アタッカー以外は、ブロックカバーに忘れないようにつくから。」
S40：「その為に、助走してスパイクが打てる位置まで移動しないとだめだね。」
S41：「スパイクを打った場所が密集してるね。」
S42：「スパイクの打ち分けが必要だね。」
S43：「そうだね。」

《動きの追究》

◎チーム練習を通じて、動きの獲得を図る。

＊アタッカー（攻撃ポジションへの移動）とアタッカー以外（ブロックカバー）の動きに対する課題を解決するために、「ポジション確認練習」をモデル提示する。



【写真13：チーム練習の様子】

○この一連の動きを、互いに確認しながら練習していた。
①サーブレシーブフォーメーションにつく。
②アタッカーは、攻撃ポジションへ移動し、攻撃のための助走を行う。
③アタッカー以外は、ブロックカバーへ移動する。

- S44：「〇〇ちゃん（前衛レフト）は、助走してよ。」
S45：「分かった！」
S46：「アタッカーをぼーっと見ない、ブロックカバー！」
S47：「あっ、いかん、いかん。すぐに忘れてしまう。」

《動きの確認》

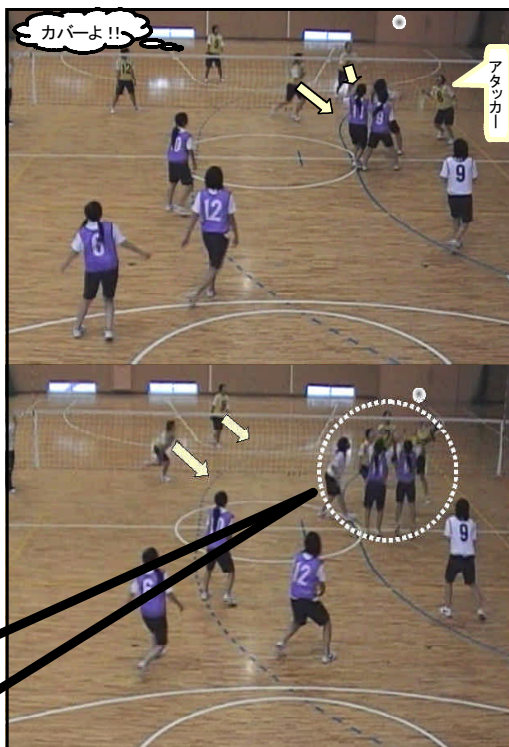
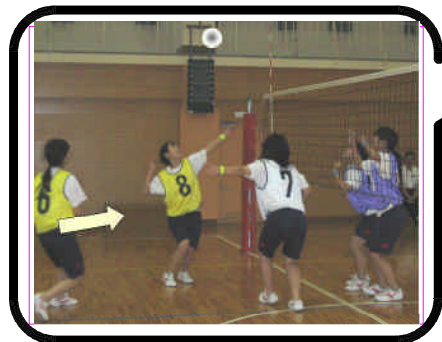
◎ゲームを通じて、動きの確認を行う。

*「まとめのゲームⅡ」を行わせる。

＜まとめのゲームⅡ：ルール＞

セッターは、レフト側のアタッカーにトスを上げ、アタッカーは、スパイクを打つ。

* 防御場面では、前段階で学習した防御フォーメーションを使わせる。



【写真14-1：「まとめのゲームⅡ」の様子】



【写真14-2：「まとめのゲームⅡ」の様子】

S48：「〇〇ちゃん、前、カバーよ。」

○攻撃ポジションへの移動（助走位置まで下がる）は、サーブレシーブからは、前衛は攻撃ポジション付近に位置取りしているためにスムーズだったが、ラリーが続くと混乱している様子が見られた。

○スパイクコースの打ち分けについては、相手コートの方を空いているスペースを見る余裕がなく、スパイクを打ち分けていない姿は、確認されなかった。

○当初は、アタッカー以外は、ブロックカバーを忘れているだけで、役割を指示する姿が確認された。

《『理解』の考察》

イ) 攻撃フォーメーション（オープン攻撃）を理解できた発言や学習ノートの記述があったか。

攻撃フォーメーションの説明の際、S31「スパイクを打つ時は、アタックラインの所まで下がるんだね。」・S32「あっ、ブロックカバーの時は、ネット際まで移動してるね。」(P22)などのオープン攻撃フォーメーションの位置取りや役割について理解を示した発言が聞かれた。

このような生徒の姿を引き出したのは、「防御における動きの獲得段階」同様、「スペース攻略ノート」の内容を、説明の際に「戦術ボード」や「試合DVD」を用いたことで、フォーメーション

の活用場面が具体的な動きとして確認でき、理解が深まったためだと考える。

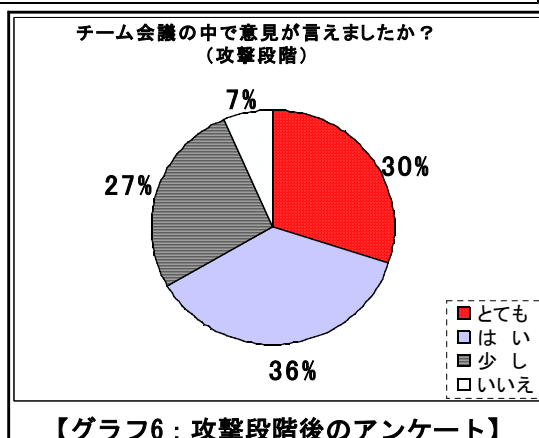
以上のことから、「スペース攻略ノート」「戦術ボード」「試合DVD」を用いて説明を行ったことは、攻撃フォーメーションの位置取りと役割を理解させる上で有効であったと考える。

《『発見』の考察》

イ) チーム会議の中で、スペースを攻めるための課題の発見や解決につながる具体的な発言があったか。

「試しのゲームC」では、相手チームが、前段階で学習した防御フォーメーションを使ってブロックに跳ぶことで、アタッカーは、攻撃しにくそうな様子が見られた【写真11(P22)】。その後、チーム会議において、「ゲーム分析シート」をもとにゲームを振り返る中で、S37「あー、ブロックがいるから、高く打ってしまう。」・S41「スパイクを打った場所が密集してるね。」(P23)などチームの課題を明確にする発言が聞かれた。さらに、S38「ブロックを気にせず、思いきり打っていいよ。」・S39「アタッカー以外は、ブロックカバーに忘れないようにつくから。」

S40「その為に、助走してスパイクが打てる位置まで移動しないとだめだね」・S42「スパイクの打ちわけが必要だね。」(P23)など、解決策を導き出す発言が聞かれ、その内容を「解決シート」に記録していた【写真12(P23)】。また、攻撃段階後にとったアンケート【グラフ6】では、66%の生徒(とても…30%・はい…36%)が、チーム会議において、課題の発見や解決のための発言をしたと答えている。



このような姿が引き出したのは、「防御の動きの獲得段階」同様、チーム会議の際に「ゲーム分析シート」をもとに、「試しのゲームC」を振り返り、「解決シート」を活用し、解決策を模索する活動を仕組んだためだと考える。

以上のことから、「ゲーム分析シート」や「解決シート」を活用し、「試しのゲームC」を振り返るチーム会議を仕組んだことは、スペースを攻めるための課題を発見し解決策を考えさせる上で有効であったと考える。

《『追究』の考察》

ア) 攻撃における動きを身に付けるためのチーム練習の中で、自己の役割を果たし、協力して練習に取り組んでいるか。

「ポジション確認練習」では、「スペース攻略ノート」の「ポジション一覧表」を参考に、S44「〇〇ちゃんは、助走してよ。」・S45「分かった!」・S46「アタッカーをぼーっと見ない、ブロックカバー!」・S47:「あっ、いかん、いかん。すぐに忘れてしまう。」(P23)などオープン攻撃フォーメーションへの移動する動きをチームで確認し合いながら、協力して練習に取り組む姿が見られた【写真13(P23)】。

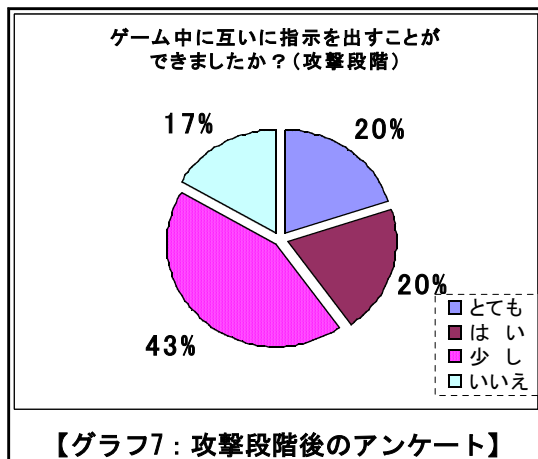
このような姿を引き出したのは、「防御の動きの獲得段階」同様、「ポジション確認練習」を提示したことや支援教材である「スペース攻略ノート」を活用し、チームで協力して練習を行う場を設定したためだと考える。

以上のことから、具体的支援を行い、チームで協力して動きを追究する場(チーム練習)を設定したことは、自己の役割を果たし、協力して練習に取り組ませる上で有効であったと考える。

《『確認』の考察》

イ) まとめのゲームにおいて、状況に応じて攻撃フォーメーションを指示する声が出ていたか。

「まとめのゲームⅡ」では、S48「〇〇ちゃん、前、カバーよ。」(P24)や【資料10-②】のように、状況判断し、攻撃フォーメーションにおける役割について指示を出す姿が見られた【写真14-2(P24)】。しかし、攻撃段階後にとったアンケート【グラフ7】では、ゲーム中にフォーメーションについての指示を出した生徒が、40%(とても…20%・はい…20%)と半数に満たなかった。これは、「まとめのゲームⅡ」が、前段階までに学習した防御フォーメーションも取り入れたゲーム内容であったために、攻防における動きがスムーズにいかず、混乱が生じた結果ではないかと考える。しかし、そのような複雑な状況にも関わらず、4割の生徒が「とても」「はい」と答えていた。



このような生徒の姿を引き出したのは、「まとめのゲームⅡ」において、練習の成果を確認する学習を仕組んだことで、自分や仲間の取るべき行動(各ポジションにおける役割)を判断できるようになったためだと考える。

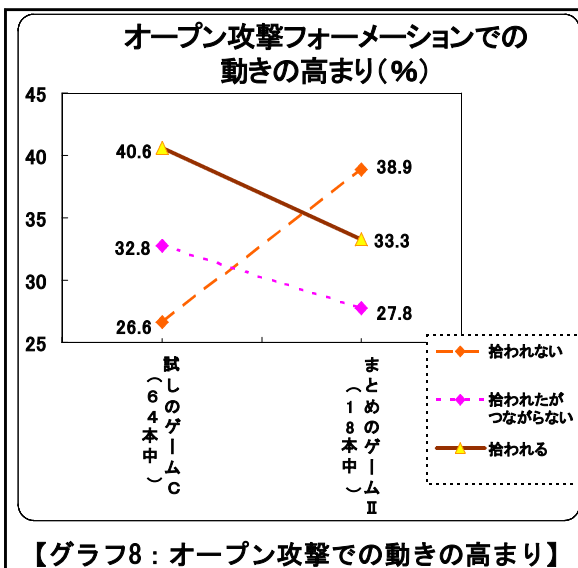
その根拠は、【資料10-①】の「まとめのゲームⅡ」の有効性について、学習ノートに書かれた感想からうかがえる。

今日は①ゲームのときにみんな②「〇〇カバーだよ」とか考えあたりしていい感じでした。

【資料10-①②：学習ノートの生徒の感想】

ウ) 身に付けた攻撃フォーメーションの動き(ブロックカバー・攻撃ポジションへの移動)をまとめのゲームで活かすことができたか。

「まとめのゲームⅡ」では、ラリーが続くことで、当初アタッカーは、防御フォーメーションから攻撃ポジションへの移動を忘れがちだった。しかし、アタッカー以外は、ブロックカバーのためにネット際に移動している姿が確認された【写真14-1(P24)】。その結果、【グラフ8】のように、攻撃段階で行った2つのゲーム(試しのゲームC・まとめのゲームⅡ)で、「拾われる」の確率は、40.6%→33.3%、「拾われたがつかない」の割合は、32.8%→27.8%と減少し、「スパイクが拾われない」の割合は、26.6%→38.9%に高まった。このことは、アタッカ



ー以外が、ブロックカバーのポジションにスムーズに移動し、カバーの体勢が取れていたために、アタッカーが、ブロックを恐れずに思いっきり攻撃できた結果ではないかと考えられる。

このような姿が引き出したのは、フォーメーションにおける位置取りを単なるチーム練習にとどめず、実際のゲームで確認する「**まとめのゲームⅡ**」を仕組んだことと、攻撃パターンをレフトからのみと限定したことで、アタッカー(前衛レフト)が、アタックの準備をしやすくなり、アタッカー以外にもレシーブやブロックカバーの準備をしやすかったためだと考える。

以上のことから、ルールを工夫(レフト攻撃に限定)した「**まとめのゲームⅡ**」を仕組んだことは、フォーメーションにおける位置取りやブロックカバーのための動きをゲームの中で活用させる上で有効であったと考える。

4 攻防における動きの獲得段階(第10～12時)

(1) 目指す生徒像

- ア) スペースを意識した動きを獲得するために、互いに声を掛け合いながら、チーム練習を行うことができる。
- イ) チーム会議の中で、攻防における課題と解決策、またチームの戦術を考えることができる。
ゲームの中で、様々な状況に応じた動きや戦術について、互いに指示を出すことができる。
- ウ) 防御フォーメーションと攻撃フォーメーションを使い、各ポジションへの移動、戦術を使った動きを獲得することができる。

(2) 手立て

- ①練習のモデル提示 ----- ポジション確認練習
②チーム会議資料 ----- 振り返りシート、戦術シート
③ゲームの導入 ----- まとめゲームⅢ

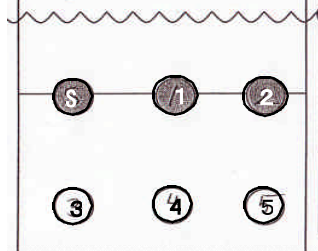
(3) 授業展開

《フォーメーションの切り替え：10～12時間》

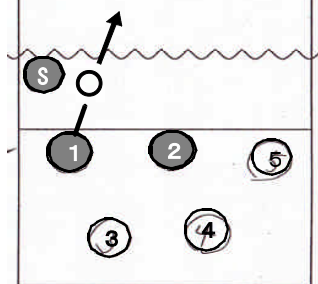
学習活動(◎)、教師の支援(*)	生徒の反応(ゴシック体は発言、○は様子)
《課題の発見》 ◎前段階までに行ったゲームを振り返り、チームの課題を見付け、戦術を考える。 *「振り返りシート」をもとに、チーム会議を行わせ、チームの課題と解決策、そして戦術を「戦術シート」に記録させる。	チーム会議：内容その1<フォーメーションの切り替えについて>  ○「振り返りシート」をもとに、前段階までに行ったゲームでの課題と解決策について話し合っていた。 【写真15-1：チーム会議の様子】 S51：「とにかく、ボールが相手コートに移ったら、ベースポジションを忘れないようにしようね。」 S52：「ボールが返ったら、前衛は、アタックの準備よ。」

戦術シート

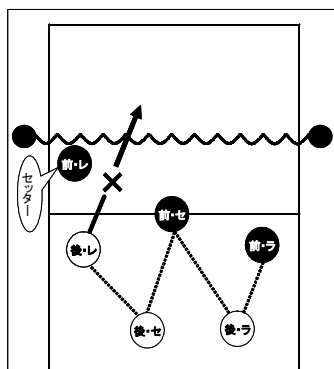
このローテーションの時



このフォーメーションを使う!!



チーム会議：内容その2〈セッターがFLの時の攻撃について〉



【セッターがFLの時の、W型フォーメーション】

前段階のまとめのゲームの中で、セッターが、前衛レフトのサーブレシーブの場合、後衛レフトが、前に移動するW型フォーメーションを取っていたので、レフトからの攻撃ができない場面があった。

S53：「この間のゲームで思ったけど、レフト攻撃で、セッターが、前衛レフトの時は、誰が攻撃するの？」

S54：「そうそう、その時は、後衛レフトが前にいるからスパイクが打てないね。考えてみよう。」

S55：「W型のフォーメーションにつくときに、アウトオブポジションにならないように、前衛センターの人がレフト側にいればいいんじゃない。」

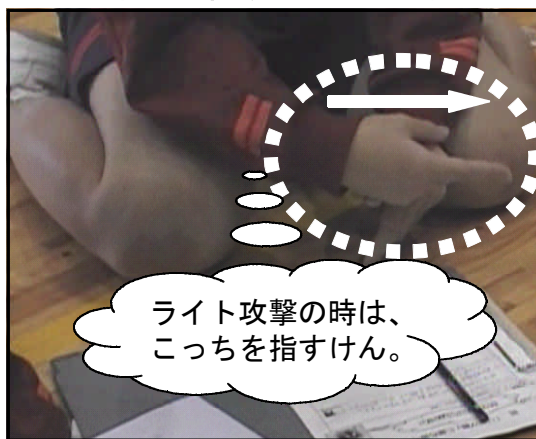
S56：「そうだね。そうすればレフトから攻撃ができるね。」

戦術シート

*オープン攻撃フォーメーション

→ ⑤
→ ① ② ③
→ ④
→ スパイクに「ス」は自分に来る
と意識させて、スーズにスパイクを打てるようにする

チーム会議：内容その3 〈サインの確認について〉



【写真15-2：チーム会議の様子】

○攻撃しやすいように、サインを決めて、「サイン」の確認をしながら、攻撃の方

S57：「攻撃しやすいようにサインを決めようよ。」

S58：「そうだね。アタッカーも、アタッカー以外も準備ができるね。」

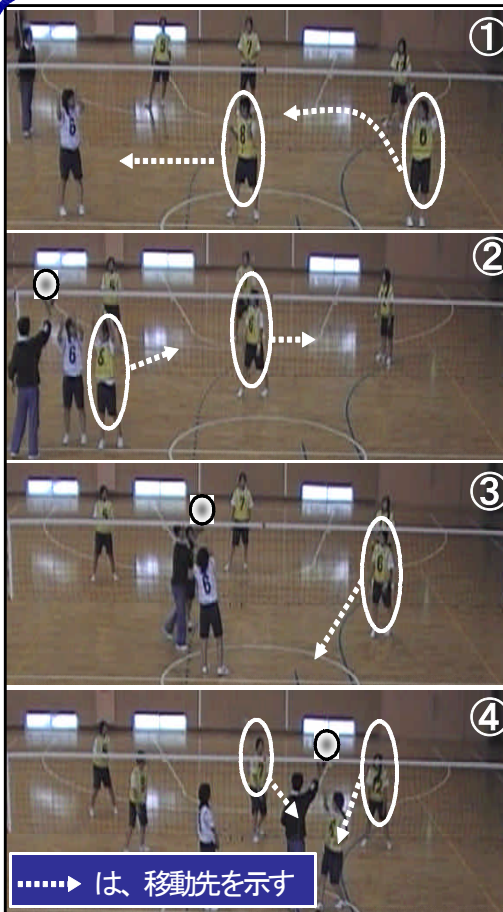
S59：「指さした方向にトスを上げるからね。」

S60：「了解」

《動きの追究》

◎チーム練習を通じて、動きの獲得を図る。

*課題の解決と攻防に伴う動きを確認するために、「**ポジション確認練習**」を提示する。



【写真16-1：チーム練習の様子】

① ベースポジションからスパイクレシーブフォーメーションへ移動する。
 ② アタッカーは、攻撃ポジションへ移動する。
 ③ アタッカー以外は、スパイクレシーブフォーメーションへ移動する。
 ④ アタッカー以外は、ブロックカバーに移動する。

S61：「この時は、ベースポジションで守るよ。」

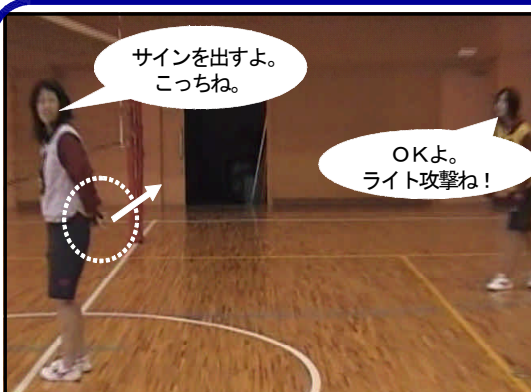
S62：「レフト攻撃の時の防御フォーメーションに移動して。」

S63：「みんな、2-1-3よー。」

S64：「ボールを拾って、セッターにつながったら、トスを上げるから、アタックの準備するよ。」

S65：「アタッカーは、思いっきり打っていいよ。」

S66：「アタッカー以外は、ブロックカバーよ。」



【写真16-2：チーム練習の様子】

○ 「サイン」を出しながら、攻撃のパターンを確認していた。

S67：「指を指す方向から攻撃よ。」

S68：「こっちを指すからね。」

S69：「OK、ここでは、ライト攻撃ね。」

「サイン」を使った攻撃



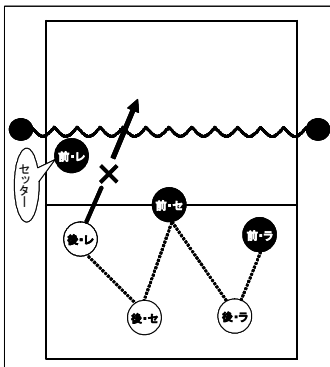
【写真19：「まとめのゲームⅢ」の様子】

○チーム会議の中で決めた「サイン」を使い、チーム全体が攻撃パターンを確認し、チーム内で約束された動きでゲームをしている姿が見られた。

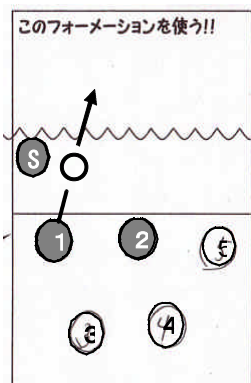
S70：「次は、こっち（ライト側）にトスを上げるよ。」

S71：「わかった。」

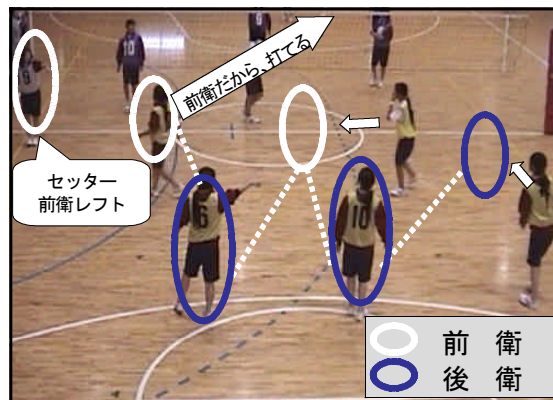
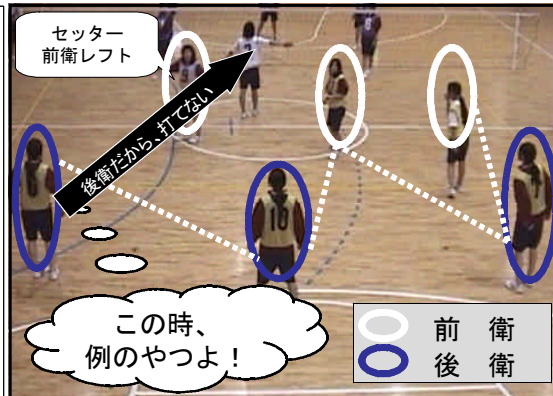
「チーム会議 内容その2」の動き



【セッターがFLの時の、W型フォーメーション】



【写真20：「まとめのゲームⅢ」の様子】



○チーム会議の内容（セッターが前衛レフトの時、レフトからの攻撃ができるように、前衛センターの人がレフト側に移動する）を使ったゲームを展開しようとしている姿が見られた。

S72：「あっ、このローテーションの時は、例のフォーメーションよ。」

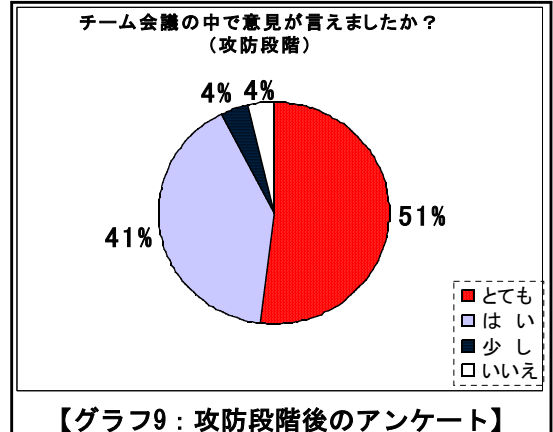
S73：「セッターが前衛レフトにいるから、レフト攻撃できるようにサーブレシーブフォーメーションを変えないと。」

○前段階までに学習したフォーメーションを状況に応じて使い分けたり、戦術を使った攻防を展開したりしながら、ゲームを展開している場面が多くみられた。

《『発見』の考察》

イ) チーム会議の中で、スペースを意識した攻防を展開するための課題の発見や解決、さらには戦術につながる具体的な発言があったか。

チーム会議において、「振り返りシート」をもとに今までのゲームを振り返る中で、S53「この間のゲームで思ったけど、レフト攻撃で、セッターが、前衛レフトの時は、誰が攻撃するの？」S54「そうそう、その時は、後衛レフトが前にいるからスパイクが打てないね。考えてみよう。」、S57「攻撃しやすいようにサインを決めようよ。」・S58「そうだね。アタッカーも、アタッカー以外も準備ができるね。」(P28)など攻防におけるやチームの課題を明確にする発言が聞かれた。さらに、S51「とにかく、ボールが相手コートに移ったら、ベースポジションを忘れないようにしようね。」・S52「ボールが返ったら、前衛は、アタックの準備よ。」(P27)、S55「W型のフォーメーションにつくときに、アウトオブポジションにならないように、前衛センターの人がレフト側にいればいいんじゃない。」・S56「そうだね。そうすればレフトから攻撃ができるね。」、S59「指さした方向にトスを上げるからね。」・S60「了解」(P28)など解決策と戦術につながる発言が聞かれ、その内容を「戦術シート」に記録していた【写真15-1(P27)、15-2(P28)】。また、攻防段階後にとったアンケート【グラフ9】では、92%の生徒(とても…51%・はい…41%)が、チーム会議において、課題の発見や解決のための発言をしたと答えている。



このような姿が引き出せたのは、チーム会議の際に「振り返りシート」をもとに、前段階までに行ったゲームを振り返り、「戦術シート」を活用し、解決策を模索する活動を仕組んだためだと考える。

以上のことから、「振り返りシート」や「戦術シート」を活用し、前段階までに行ったゲームを振り返るチーム会議を仕組んだことは、スペースを意識した攻防を展開するための課題を発見し解決策や戦術を考えさせる上で有効であったと考える。

《『追究』の考察》

ア) 攻防における動きを身に付けるためにのチーム練習の中で、自己の役割を果たし、協力して練習に取り組んでいるか。

「ポジション確認練習」では、S61「この時は、ベースポジションで守るよ。」・S62「レフト攻撃の時の防御フォーメーションに移動して。」・S63「みんな、2-1-3よ。」・S64「ボールを拾って、セッターにつながったら、トスを上げるから、アタックの準備するよ。」・S65「アタッカーは、思いっきり打っていいよ。」・S66「アタッカー以外は、ブロックカバーよ。」(P29)【写真16-1(P29)】やS67「指を指す方向から攻撃よ。」・S68「こっちを指すからね。」・S69「OK、ここでは、ライト攻撃ね。」(P29)【写真16-2(P29)】など様々な状況や戦術に応じた動きをチームで確認し合い、協力して練習に取り組む姿が見られた。

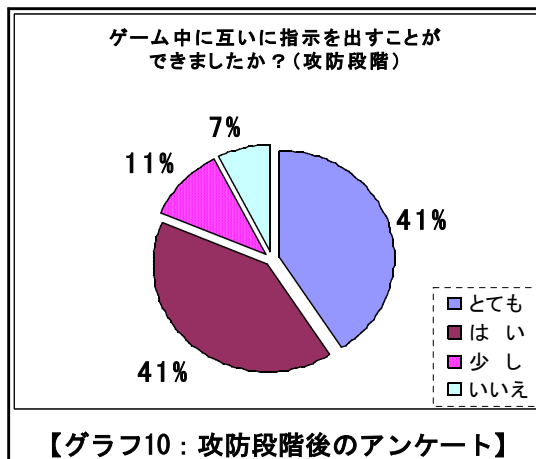
このような姿を引き出せたのは、「ポジション確認練習」を提示し、チームで協力して、練習を行う場を設定したためだと考える。

以上のことから、具体的支援を行い、チームで協力して練習する場（チーム練習）を設定したことは、自己の役割を果たし、協力して練習に取り組ませる上で有効であったと考える。

《『確認』の考察》

イ) まとめのゲームにおいて、状況に応じて、攻防や戦術における指示する声が出ていたか。

「まとめのゲームⅢ」では、S70「次は、こっちにトスを上げるよ。」・S71「わかった。」(P31)【写真19(P31)】・【資料11】やS72「あっ、このローテーションの時は、例のフォーメーションよ。」・S73「セッターが前衛レフトにいるから、レフト攻撃ができるようにサーブレシーブフォーメーションを変えないと。」(P31)【写真20(P31)】など状況を判断し、攻防におけるチームの戦術について指示を出す姿が見られた。また、攻防段階後にとったアンケート【グラフ10】では、82%の生徒(とても…41%・はい…41%)が、ゲーム中にフォーメーションや戦術について指示を出していたと答えている。



このような生徒の姿を引き出したのは、「まとめのゲームⅢ」において、練習の成果を確認する学習を仕組んだことで、チームが取るべき行動(戦術)を判断できるようになったためだと考える。

試合ではたくさん声を出せました。フォーメーションの移動も慣れてきました！今日の試合は皆頑張っていてすごく楽しかったです。サインも使って本格的バレーで感じました。

【資料11：学習ノートの生徒の感想】

ウ) 身に付けた攻防における動き（フォーメーションの切り替え・戦術を使った動き）をまとめのゲームで活かすことができるか。

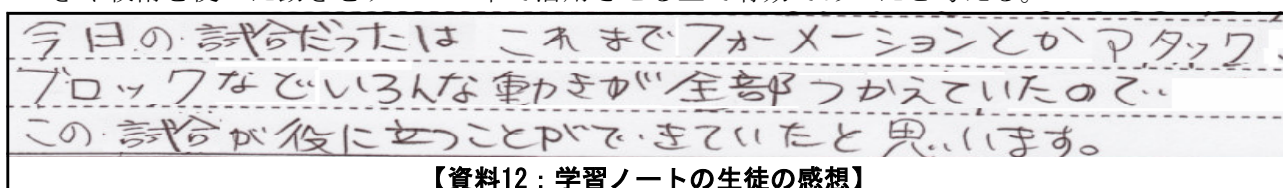
「まとめのゲームⅢ」では、前段階までに学習したフォーメーションを使いながら、防御フォーメーションと攻撃フォーメーションを切り替えた動きでゲームを展開している姿が見られた【写真17・18(P30)】。また、戦術を使った動き(サインの活用)【写真19(P31)】やチームの状況を判断し、よりよい攻撃へつなげるためのサーブレシーブフォーメーションの変化(チーム会議内容その2)【写真20(P31)】など、状況に応じてフォーメーションを使い分けながら、スペースを意識した動きでゲームを展開している姿を確認することができた。

このような姿が引き出したのは、各ポジションへの移動を単なるチーム練習にとどめず、実際のゲームで確認する「まとめのゲームⅢ」を仕組んだことと、まとめのゲームⅠ・Ⅱと同様に、得点に関わらず、サーブ権を1本交代で行ったことで、チーム会議で考えた防御場面や攻撃場面の解決策や戦術を交互に確認できたためだと考える。

その根拠は、【資料12(P34)】の「まとめのゲームⅢ」の有効性について、学習ノートに書かれた感想からうかがうことができる。

以上のことから、攻防段階において、ルールを工夫した(サーブ権は、得点に関わらず、交互に

与える)「**まとめのゲームⅢ**」を仕組んだことは、攻防におけるフォーメーションを切り替える動きや戦術を使った動きをゲームの中で活用させる上で有効であったと考える。



【資料12：学習ノートの生徒の感想】

Ⅶ 全体考察

1 単元構成の工夫から

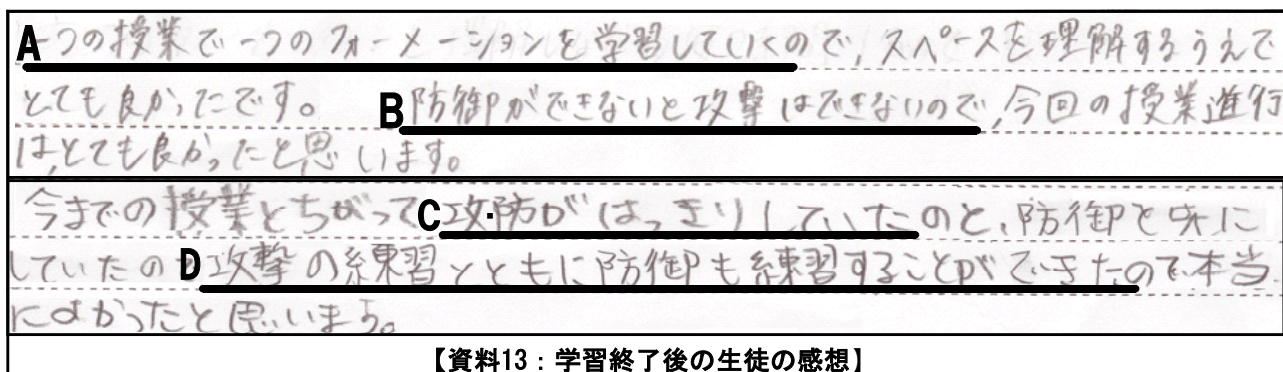
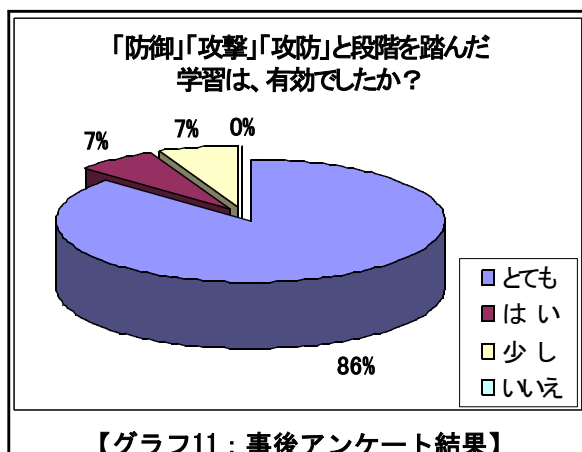
(1)「防御」「攻撃」「攻防」の学習段階から

①「防御」・「攻撃」・「攻防」の学習場面の提示について

学習終了後の生徒の感想に、「その時間で学習する内容が整理されて分かりやすかった。」「少しずつ理解できた。」などの記述があった【資料13-A・C, 資料14-F】。これは、学習内容を「防御における動きの獲得」と「攻撃における動きの獲得」の局面に分けて示し、その上で「攻防における動きの獲得」に発展させたことで、学習内容が明確になり、より実践に即した理解を促したためだと考える。

②「防御」→「攻撃」→「攻防」の学習内容の順序性について

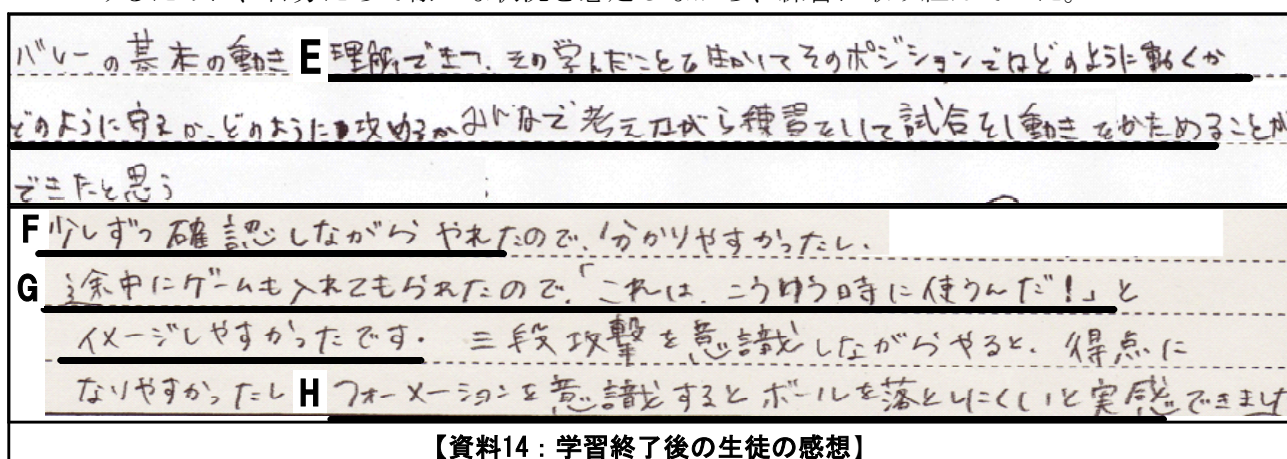
学習終了後の生徒の感想に、「**防御ができないと攻撃につながらない。**」「**攻撃段階で行うゲームの中で、防御段階で身に付けた動きを振り返ることもできた。**」などの記述があった【資料13-B・D】。さらに、段階終了後のアンケート【グラフ11】でも、93%の生徒(とても…86%・はい…7%)が、学習内容の順序性(「防御」→「攻撃」→「攻防」)について、有効であると答えた。これは、バレーボールのゲーム展開が、相手からのボールを拾うことから始まり、ボールを拾わなければ攻撃につなぐことができないため、学習内容を「防御」→「攻撃」へと展開させ、さらに、ラリーが続いた「攻防」へ発展させたためだと考える。また、攻撃段階で導入したゲームにおいて、前段階の「防御における動き」を取り入れるなど、前段階での動きを復習することにより、より実践に即した動きを定着させたためだと考える。



【資料13：学習終了後の生徒の感想】

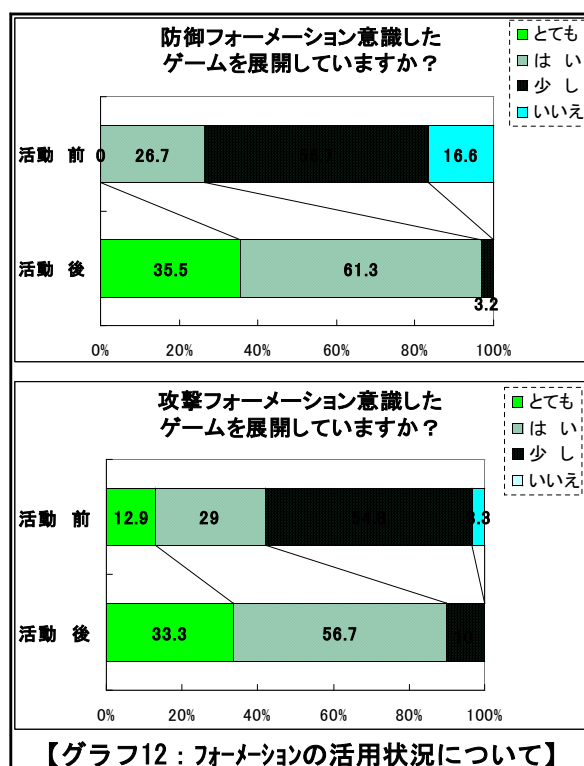
(2) 【理解】【発見】【追究】【確認】の活動による課題解決学習について

学習終了後の生徒の感想に、「フォーメーションを理解し、フォーメーションを使ってどのように動くかチームで話し合い、練習をして、試合で動きをかためることができた。」のような感想があった【資料14-E】。これは、「フォーメーションの【理解】→試しのゲームでフォーメーションにおけるチームの課題と解決策の【発見】→「ボールを持たない時の動き」を中心としたチーム練習での【追究】→まとめのゲームで動きの【確認】」の流れが、生徒の思考に応じた、効率のよい学習展開につながったことが分かる。つまり、【発見】（課題の発見）・【追究】（課題の解決）という課題解決学習の基本的な展開の前後に【理解】・【確認】の活動を仕組み、【理解】の活動で、フォーメーションの知識を深めさせ、フォーメーションにおけるチームの課題や解決策を考えさせることができ、また【資料14-F】のように、【確認】の活動で、動きの獲得をゲームを通じて確認させたことにより、身に付けた知識や技能を実践の中で活用できるものとして定着させることができたためだと考える。また、仮説演繹的思考の後期段階にあたる生徒にとっては、知識を深めていくと同時に、チームとしての動きを身に付けるために、自分たちで様々な状況を想定しながら、練習に取り組んでいた。



2 フォーメーションの活用から

【グラフ12】は、学習前と学習後に「防御・攻撃フォーメーションを意識したゲームを展開しているか」についての質問したアンケートの結果である。防御フォーメーションについては、「とても」「はい」と答えているのが、26.7%（0%+26.7%）→96.8%（35.5%+61.3%）、攻撃フォーメーションについては、41.9%（12.9%+29%）→90%（33.3%+56.7%）と高まりを示した。また、学習終了後の生徒の感想に、フォーメーションを活用したことで、「動きやすかった・スペースを意識して動けた」などの記述が多くみられた【資料15-I・K】。このような姿を引き出すことができたのは、バレーボールの学習指導をフォーメーションの活用を柱として展開



フォーメーションを取り入れた
学習は有効でしたか？

回答	割合
とても	80%
はい	17%
少し	3%
いいえ	0%

【グラフ13：事後アンケート結果】

はじめてこういう学習をして、最初はまあなりきることもなかったけど、
最後の試合は、3段攻撃をうまくいきすぎて楽しいものに「はいまし
て」！ スポーツも意識して動くようにはねにのびやかさにひたす。

フットボールを学んできたのが、とて驚しかったし K同時に動きまわってきた。始めと
比べると ずっと速く動けるようになったし、チームワークもとれた。またバレーボールをする
機会があればいいかなと思っています。

【資料15：学習終了後の生徒の感想】

2 課 題

- ①より安定したゲームを展開させる上で、「ボールを持たないときの動き」を定着させるとともに、「ボール操作」の獲得を図るなど両者のバランスがとれた指導内容を検討していく必要がある。
- ②チーム練習において、生徒がより積極的に活用できる具体的支援のさらなる工夫が必要である。

*引用・参考文献

- 文部省 「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」 平成11年12月
- 高橋建夫・岡出美則・萩原朋子・品田龍吉・内田雄三 編著
「体育科教育：体育の認識学習を構想する」 大修館書店 2007年
- 加藤敏弘・赤羽根直樹・吉村正・岡出美則 編著
「体育科教育：みんなが伸びる『ボール運動』『球技』の授業」 大修館書店 2001年
- 高橋建夫 編著「体育授業を観察評価する」 明和出版 2003年
- リンダ・L・グリフィン 他（著）・高橋建夫・岡出美則（監修）
「ボール運動の指導プログラム」 大修館書店 1999年
- 高梨泰彦 著「バレーボール 試合に強くなる戦術セミナー」 実業之日本社 2008年
- 福原祐三 編「バレーボールの練習プログラム」 大修館書店 1997年
- 朽堀申二 編著「バレーボールの学習指導と教材研究」 不昧堂出版 1997年
- 岩島章博 監修「バレーボール上達 BOOK」 成美堂出版 2002年
- 西川順之助 著「分かりやすいバレーボールのルール」 成美堂出版 2007年
- 豊田博 著 「バレーボール技術クリニック」 大修館書店 1991年